新女界

第參巻　第拾壹號

明治四十四年十一月一日發行（毎月一回一日發行）
明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

東京　新人社　發行

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界第參卷拾壹號目次

▲社說
◎犧牲の精神……安井哲

▲講壇
◎新しき生活……谷津直秀

▲想苑
◎我國女子の將來……成瀬仁藏
◎婦人解放問題の眞意義……內ケ崎作三郎
◎男女問題の宗教的意義……安部清藏
◎淨心錄……谷津直秀

▲雜俎
◎旅の心……紫嵐
◎寫眞箱……せいさん

▲家庭
◎子女教育に對する母の務め……海老名みや
◎家庭衞生大意……小山憲佐

▲時局二題
◎伊土戰爭
◎淸國革命運動

▲隨感
▲煩悶相談部記事

毛髮の惡臭は交際上の不覺紳士も奥さんも嬢さんも香りよき千代田香油に限るとの高評盛んなり

定價
七十錢
卅五錢
廿五錢
十七錢

スワン石鹸

純白で湯水に浮き價安くて品の良き英國製スワン石鹸は全國の藥舖小間物店化粧品にあり

英國製 スワン石鹸 日本一手販賣

東京馬喰町四丁目 山岸三之助

電話浪花三七九三
振替口座二〇五〇〇

主筆　海老名彈正

新人

毎月一回　一日發行

十一月一日發行　二十卷十一號　一冊十五錢　一年一圓六十五錢（郵税共）

◎我國情の變遷と基督教……社説
◎自信……海老名彈正
◎余は佛陀より基督に往けり……小山鼎浦
◎先祖崇拜と基督教……赤星仙太
◎予が見たる論語……安部清藏
◎國家主義と個人主義……帆足皆夢
◎日本人種改造論を讀む……谷津直秀
◎南薫造氏の洋畫會を見る……有田生
◎清見潟の話題……天童
◎清國に於ける日本人の將來……片山幽吉
◎二ツの死……森脇白夜
◎馬可傳……海老名彈正
◎文藝小觀
◎時潮小觀
◎時評
▲小崎弘道氏の『基督教の本質を』讀む▲祖先崇拜は宗教にあらず▲我國體を如何せん▲悲しむべきヂレンマ▲籠城主義の基督教會
◎教界彙報……◎編輯だより

發行所　東京小石川區林町四十三　振替東京一四〇〇五番　新人社

羽仁もと子編

◉豫算超過を防ぐ理想的の小遣帳

家計簿

明治四十五年用

定價四拾錢
郵稅六錢

▲この家計簿を用ゐてゐると、豫算超過の心配がなく、ひとりでに貯金が出來ます、▲この家計簿を用ゐてゐると、月末にも年末にも、殆ど算盤を手にすることなしに、一家の生計費の内譯までが、一目で分るやうになります、▲家庭に於ける日々の支出を、この家計簿に記すのは、恰も翌日の適當なる支出額の暗示を受くるやうなものであります、▲どんなに經濟の下手な人でも、この家計簿を用ゐてゐると、知らず〳〵一家の財政を健全にすることが出來ます、▲記入の仕方は極々簡易で、普通の小遣帳と同樣、誰れにでも氣樂につけられます、

偽物續出す●●●●●●●●●●●羽仁もと子編及び婦人之友社發行の文字に御注意下され度候

主婦日記

明治四十五年用

定價四拾錢
郵稅六錢

發行所 東京小石川雜司ヶ谷 振替東京一一六〇〇 婦人之友社 電話番町三六九八

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「かれこれと迷ふこと勿れ
完全無缺なる大學目藥あり

大阪北濱ヘブリン丸元祖
參天堂藥房
定價小瓶十錢●中瓶卅錢●大瓶五十錢
郵税 小二錢 中四錢 大八錢

大學目藥は帝國醫科大學病院の處方に基きし貴重の製劑にして●はやり目●トラホーム●星目●のぼせ目●かすみ目●血目●疲目其他眼病一切に驚くべき奇効あり●全國各地有名の藥店にあり

高島平三郎先生著

菊版六百五十頁餘ラフペーパ
總クロース天金箱入
内容詳細は郵券二錢を送れ
定價金二圓八十錢送料十二錢

最新刊

教育に應用したる兒童研究

本書は我國教育界の泰斗高島先生空前の大著にして各種專門學校中師範高等女學校小學校等の實際家は固より苟しくも子女を有する家庭は此の書によりて理想的健全なる兒童研究の福音に接すべし所說極めて簡易明快何人も面のあたり先生の講演を聽くが如く就中玩具の研究の如きは眞に斯界前人未發の卓見に饒めり教育家は勿論家庭の父母は本書に由りて胎兒期より搖籃裡に眠る嬰兒或は恩物を友とする幼稚園時代或は義務教育時代にある少年少女或は青春の危期にある青年處女の爲に理想的教育を施すを得て眞に學校と家庭に於ける寶典たるを信ず

發行所 東京麴町二丁目二番地 振替東京二〇九一四番 洛陽堂

賣捌（東京堂・上田屋・文林堂・至誠堂・東海堂・北隆館・文榮閣・大阪盛文館・京都東枝・久留米菊竹

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第參卷第拾壹號

義侠的精神

安井哲

「朕に何を爲すべきかを敎へよ、朕卽ち之れを爲さん」とはヴィクトアリア女王が甞て其臣に仰せられた御言葉でありますが、正しきを愛し、且又之れを實行せんとする決意を表はされた實に勇ましい御言葉であります。吾々は時に正邪の判斷を誤つて、之れが爲めに過ちに陷る事もありますが、時には又正しいと知りつゝ、實行を敢てなし能はぬ事もあります。自ら正しいと信じ、之れを決行したいと望みながら、周圍の事情に餘儀なくせられて、之れを抑へるといふ事は、實に堪へられぬ苦痛でありますけれども、此複雑な社會、殊に過渡の時代に在りましては實に免れ得ぬ事であります。併しながら吾々は自分の修養を力めると同時に、周圍の人々と相助けて、共に健全な輿論を造り、成るべくかゝる苦痛を自他より取り除きたい者であります。

消極的生活に馴れた我々女子は、自分に過ちなかれかしと愼しむ事は容易でありますけれども、進んで善事を爲さんとする事は比較的困難であります。而して之れは强ちに女子自身の罪のみでなく、社會一部の無責任な批評が女子をして臆病ならしめ、退いて守る事にのみ力を用ひしむるに至つたのであります。

己れを守る事は決して惡い事でありません。併己れのみを守つて他を省みなければ、此社會は實に冷淡な者となります。吾々が平生の交際に於て、互に笑顔を作り叮嚀に物言ひ合ふに係らず何等の暖味も信頼も又快感も起らぬのは即ち心に冷味があるからではありますまいか。そこで此自守ると云ふ傾が次第に進みますと、自己の利害に關係せぬ事は成るべく避けやうとし、當然保護し辯護すべき位置にありながら、冷淡にも後進、朋友又は先輩をして孤立の位置に立たしむる事が往々あります。例ば初めは或說に賛成しながら、其形勢如何に依つては急に吾主張を曖昧にして、正しき說の破れるのを贊けんともせず、又正しき人が他人の誤解を受け居るのを聞き流しにして辯護の勞を取らんともせぬが如きは往往實驗する所であります。勿論之れは吾々が直接に强ひらるゝ義務ではありませんけれども、眞に善を好み正を愛する者は、識ると知らざるとに論なく、正しき人を保護せんとする一種の義俠的精神の伴ふ事は實に止を得ぬ事であります。然るに成るべく面倒な關係を避けんが爲め、又は自分の位置を保たんがため、又は利益を得んがために、正善なる人々を孤立せしめんとするが如きは、人として實に恥づべき事であります。

昔の武士は實に驚くべき程に義を重んじました。故に信頼し得る點を有つて居りました。今の吾等は種々の事情に依つて吾立場を變へねばならず、又主張をも改めねばなりません。故に安心して互に信頼する事が出來ません。從つて最小さい事にも首尾一貫した行動を爲す事が稀で、初あつて終なきか、又

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は初は友にして終りには敵となるの奇觀を呈する事さへ少くはありません。かくは申す者の、人は自然に正を喜ぶの傾を有つて居る者と私は信じます。故に正の聲が強ければ多數の人は直に之れに從ひ、自然に賴母もしい輿論を造り得るのでありますけれども、如何にせん、吾々は時として之れに應ずるの勇氣を失ふのであります。

私が曾てシャムに住んで居りました時に、召使つて居りました支那人の「クック」が、或日買物に行つたまゝ歸つてまゐりませんでした。如何したのかと心配して居りますと、其翌日友人が訪ねて來まして、警察署に拘引されたといふ事を語りました。何故かと質しますと、前夜余りの暑さに近處に涼んで居ますと、突然向側の家から支那人が現はれ出で、汝は盗賊であらうとて無法にもいきなり「ステッキ」で其額を打ち、終に警察署に引いていつたのであるが、何卒救つてやつて下さいと申す事でありました。そこで私は其言葉を信じ直に署長に手紙を認めまして、彼が殆二年間正直に勤めた事を保證し、現行犯ならば勿論保護の餘地なきも、單に嫌疑であるならば何卒歸宅を許されたいと願ひ出でました。處が意外にも即刻歸つて參りました。手紙一通がかくも容易く人を救ひ得たかと驚きもし又喜びも致して居りますと、彼は二三日の後裁判所に出頭せよとの命を受けました。恐怖の情に充ちて出て行きましたが、訴人である佛國人欠席のため數日の後再出頭を命ぜられ其まゝ歸つて來ました。然るに命令を嚴守して再出頭した彼は再佛人欠席の故で終に免訴となりました。ところがかくも散々に他人を苦しめた佛人は何等の制裁をも受けませんでした。私は此時自國政府の保護なき此清人に對して實に滿腔の同情を與へずには居られませんでした。嗚呼此「クック」にして若し吾々に冷淡なる取扱を受けたと致しましたならば、罪なくして長く獄中に呻吟せねばならなかつたかも知れません。

之れは強國民と弱國民との間に起つた不公平の

例でありますけれども、之れに類した實例は吾々日常の生活に決して少くはありません。得意の時代に友多く、失意の時代に友を失ふのは珍しくない事であります。其故に自分の良心に正しいと信じながらも、其人の友となり助けとなつて、其正しき事を實行させるの勇氣を缺ぎ、甚しきは初めに深き同情者たりし人が、自己に利あらずと看破するや否や反對者たるの態度を取つて少しも耻とせぬといふ樣な類は、悲しいかな吾々の往々目擊する所であります。人間の尊い所は、自己の利益を忘れて正しい事は正しいと公言する勇氣を有する事で、之れで初めて吾々は善に趣かんと勵む樣になるのであります。

要するに吾々は吾共同的生活をお互の爲めに愉快にし、且又正しく致したい者と思ひます。而して此目的を達せんには、各自の修養は勿論でありますけれども、成るべく善に與みし、正を贊けて、正善なる人々の勢力を大にし、社會をして道德的健全なる者となしたいのであります。之れにはヴィクトリア女王の如く、「爲すべき事は吾之れを爲さん」の決心と、進んで正しき人々の味方たらんとするの義俠的精神とを養ふ事が必要であります。正邪に伴ふ盛衰は、時に人をして疑ひを抱かしむる事もありますけれども、之れを永遠に判斷致します時には、必ず公平の結果を得る者であると信じ得らるゝのであります。否必しも永遠に其結果を待つの必要はありません。僅に數年にして正邪の結果が自然に現はるる事さへあるのは實に驚くべき程であります。故に一時の利害問題に心を奪はれて卑劣卑怯な行動を敢てせず、未來に來るべき正しき結果を信じて、潔く正に與みし、邪を拒むの義俠的精神を養ひたい者であります。

言ふべきをいはざるも亦言はざるを
いふも道にはかなはざりけり。
（樂翁公）

新しき生活

谷津直秀

一

馬可傳第五章の初の方を見れば、イエスが病人を癒された話が載せてあります。卽ちイエスがガリラヤ湖の西岸から東側に船にて渡られし時に、そこに惡鬼に憑かれた人が墓場の中から出て來て、イエスを見て非常におそれたが、イエスが一聲惡鬼に向つて「人より出でよ」と仰つしやると、惡鬼人より出で去りて其人が正氣の人となつたとある。而して癒つて後の狀態は「人々慥かなる心にて座し居るを見て驚きあへり」とあります。此狂人を癒された事は、キリストの地上の生涯の間に非常に多かつたことと思はるゝが、夫れよりもキリストが此世を去られてから甦つたイエスとして狂氣を癒された事は更に多く、今日まで世界の國々に何萬何億とある事と思ふ。未だキリストを知らざりし人が彼を知りてより、慥かなる心にて座するに至りしものは實に多く其數はかぞへられぬのである。イエスがこの世の中で、一の國に來られたので其國が心持ちが正しく正氣になり、一の家に來られたので、其家が心持が正しく正氣になり、一個人に來られたので、其人が正

氣になつたためしは實に數へられない。彼は到る所に氣狂をなほさねばやまない。イエスの來られし前と其後とは非常な相違であつて、種々な場合に其差異を見出すのである。而して新しき活氣を得、正しき生涯に入る、其變化も色々に見る事が出來ます。私の知人に監獄に傳道をしてをるお婆さんがあつた。其人の話に新しい四人が入つて來る、初めの中は實に之でも人間かと思ふ位であるが、暫にして神樣の事や、キリストの敎を聽かせると、話聲に一種の優しみを帶びて來る、其聲が違ふと云ふ事である。之は一例に過ぎないが、其他多くの點に於て差異を生ずるのは、茲に今更申し上げる必要もありますまい。

二

近頃佛蘭西の北方の諸州に基督敎の活氣が現はれて來ました。ソコでこう云ふ一の話がある、それは坑夫の傳道である、元來坑夫など云ふものは毎日

毎日坑に入つては出で、出ては入る、實に慘ましき境遇にあるものであつて、從て惡風習に捕へられ、品性は墮落し、家に歸れば妻を擲り、子供を叱りとばし、實に目もあてられぬあさましき生活をしてをる者である。所がソコに或牧師が行つた。牧師は初め家庭に傳道した。其家々のおかみさん達に髮もちやんと結ふて、身のまはりも家も奇麗にするやうに、基督敎の美はしい所を傳道した。坑夫が家に歸つてみれば、其變化は實に驚くばかりである、妻も小供もサツパリとして、室もチヤンと掃除が行き屆いてをる。夕方疲れきつて歸ればお歸りなさいと歡迎する、お湯もわいてをる、何はなくとも心をこめた御馳走もある。ソコで坑夫は何故かと聞く、牧師さんの敎へだといふ。基督敎は分らないか、併し彼等の心情は感に打たれて、彼等は心の底から非常な變化をいたし、自然と惡い風習も去り家に歸ることを樂しみ、妻に其日の出來事を語り、子供には學校の事や何かを聞く事となり、夫れが全村に及んで神の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

敎が村中に傳はつて、一村の人心を變化し、清い村としたと云ふ事である。

三

基督が人を訪づれて、其人が變つて行く狀態はさまざまである、又其時期も種々に違ふ。之を國にして見れば或國は將さに滅亡せんとする時、又或國は今や全盛の時代に來る。之を人の心にしても或人は悲嘆に暮れ絶望の淵に瀕して居る時、或人には喜びに滿ちて居る時、又或人には病苦に惱んでをる時に訪づれて來る。又其訪づれ來る時機でも、實に種々であつて、或人はキリストと云ふ事も何も知らぬのに讃美歌を聞き、其高尚な音樂を通ふしてイエスを迎へ入れ、或人は主を信ずる人々の謙遜な態度を通して、イエスを信ずるに至り、又或人は墮落の極自殺せんとしてをる時に、キリストを迎へ入れる人もある。之れは西洋の事であるが或人將に命も捨てんとしたがフトした所から思ひ止まりて敎會に行く事となり、コチラで云へば柳原みたやうな所で古着を買つて、夫れを着て敎會に行つた。所が說敎がすむと牧師は其人の許にツカ／＼と進んで來て、よく來ましたねと云ふて握手した、其人は牧師の愛にみちたこの握手で、全く救はれてイエスをお迎へ申したと云ふことである。何故に牧師が其人を認めたかと云へば、其人の着た古着の服はもと牧師の着用せしものであつたとの事である。これ等はイエスが妙な所から人を訪づれた一例であります。

然らばキリストをお迎へする最も善い例は何か、夫れはキリストを信ずる友人を通して彼を信ずることである。卽ち我々キリストを信ずるものが、未だ彼を知らざる多くの友人に彼を紹介することである。我等基督信者が、コウ云ふ先生が居る君の生活を新にし、今の境遇をかへるのにはこの人を信賴するがよいと、キリストと云ふ先生を紹介することが第一である。一人で或は書物により、或は其他の導きによりて主を認めるのもよい事であるが、基督信

者がキリストを紹介するのが、最も有力で、且つ有効だと思ふ。

四

現今基督教の大勢を見るに、之を人口に比すれば實に少數である。年々人口の殖えて行く數は實に大なるもので、基督信者の增加數は實に少數であるから、比較の上から云へば其數は年々減少して行くわけになる。我等は努めてイエスを多くの人に紹介して、比較の上にも其數が增して來る方針をとらねばならぬ。

或人は迚も駄目だ、此の大勢に反抗して、新しき國、新しき人を作ると云ふことは實に難中の難だ。千九百年間の大努力血と涙との大奮闘の結果がこれなれば迚ても駄目だと云ふ者がある。然しながらそれは所謂楯の半面を見たものである。世界の國々が今日あるは、キリストの力によるものが多い。若しもキリストが此の世に來られなかつたなら實にあさ

ましい世の中になつたであらう。之を我等基督信者、各自に就て考へて見るに、信者となつた後と、前とを考へて見ると其差がわかる。我々は信者となつた喜びを持つてをる、否時に忘れることがあつても、靜かに立ちかへつて考へて見れば、必ず持つて居る事を自覺するを得るのである。或基督信者はキリストを失つてしまつて其精神は死んでをる。否死ないまでも墮落してをる。我等は健康にして、喜を以て其日を送り、日曜日には會堂に集り、かく共に禮拜を守るのは感謝の外はない。喜悅の極みである。其喜びを思ひ起して、其淸き新しき生涯に入つた變化を常に神に感謝して、其喜びを分けて與へてやるのは、なすべきの務めであります。自分一人で喜んで居るのは道でない、他人にも其喜悅を增し加へてやらねばならぬ。夫れが我等のキリストに對して負へる義務であります。然しながら人間は兎角境遇の違つたものに同情をよせることは出來にくいものである。之に反して自分と同樣なことを經驗し、自分

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と同樣な境遇に置かれた人に對しては、自分がどう云ふ風にして切りぬけて來たかを語りて同情をよせ得るものである。我々は自分と同樣の境遇にある周圍の人々に、出來得るだけの傳通をせねばならぬ。之れは基督信者の義務として是非せねばならぬ。家庭、社會を新しく作つて、我等と喜びを共にする者を一人にても多くする事は刻下の急務である。

五

今日の教會では凡ての事を牧師にまかせて、自分は自身の信仰を守ればよいとする傾きがあるが、之れは天才の人でなければ一人で凡ての方面に活動することは出來ない所ろである。吾等は他人に對して信仰を傳ふる時に其信仰の力が増し加はり、且つ新しくなるものである。自分の喜びを人に勸めることは自分の內容を新らしくし、信仰を保つ所以である。斯く申さば中には自分は信仰がよわいから他人を顚かするかもしれぬと懸念する方もあるであらうが、決して懸念するには及ばぬ。それは神樣にお願ひして、祈りを以て、少しの實驗も之を語り、僅かの喜びも之を分つならば、神は必ず之れを有効ならしめ給ふであらう。今日は御互の友人の中に親戚の中に、舊い生活に苦しんで居る者が多い。今も矢張りキリストの時代の如く、新しき生活に入り難くつて、又中には新しい生活を知らずして故の生活に悶へ苦しんで居るものが實に多いのである。こう云ふ時に我等は已むにやまれぬ心を以て、是等の憐むべき生活に囚はれたる人々に、是非共キリストを紹介せねばならぬ。

彼の傑僧サボナローラはフローレンス市が腐敗墮落の極に達せる時に、有ゆる迫害をうけ身命を賭して基督教を傳道し、遂に同市の目貫きの場所にて燒き殺されたのであるが、彼は「キリストはフローレンスの王なり」と叫んだ。我々は日本國民の精神を支配する王としてキリストを迎へ、新しい活氣を以て精神を一新せねばならぬ。一家の王とし、一國の

王としてキリストを迎へ入れねばならぬ。夫れに就て重要なる點は、我等の信仰の内容である。我等の信仰も常に之れを新しくして行かねばならぬ。人間の心の働きは實に微妙なるものである。信仰は決して同一の所に停まつてをらぬ。進むか退くか、二者其の一である。少しも進まないのは退きつゝある證據である、新しくないのは舊くなりつゝあるのである。我等が喜びに滿ち、感謝に滿ちて居るならば、同時に新しき生活を得て行かねばならぬ筈である。愛蘭土のトラピストは御承知の如く無言の行者であるが、只二つの許された言葉がある、夫れは「死を思へ」である。我等にして若し二つの言葉があるならば、それは「新しき生活を思へ」と云ふことであらう。我等はこれを心掛けねばならぬ。

（十月十五日本郷教會に於ける說教筆記）

淨心錄（二）

谷津直秀

（六）アムステルダムの國立博物館の圖書室の東側の壁にチランダ語で斯樣に書いてあります「目の二つあり口の一つあるは茲で讀むこと多く語ること少かるべきしるしなり」これは其所ばかりでなく凡ての所でそうでしよう。

（七）アルマ、タデマは有名な英國の畫家でギリシヤ、ローマの建築風俗等を巧に畫く人ですが嘗てエーチソン教授の肖像をかいた或る人に彼は教授を畫かないで友をかいたと說明したそうです、彼の肖像畫には友愛の情が躍如としているそうです。

（八）四年前に米國テキサスで死んだ有名な婦人の彫刻家エリサベツト、ネーは獨逸ウエストフアーリヤで生れ母より十四世紀にストラスブルグの大寺院を建てたる建築家の娘のサビナフ、チンスタイン、バツハが父と共に五人の賢き童女と五人の愚なる童女を造つたことを聞て奮然意を決して困難を排してミユンヘン、ベルリンの美術學校に通學して遂に第一流の彫刻家となりフンボルト、グリム、シヨツペンハウエル、ガリバルヂー、ビスマーク等歷史の偉人が彼女の前に坐つたそうで女性には稀なる天才でした嘗てシヨウペンハウエルの半身像を作つているとき此哲學者が不思議そうにエリザベツト、ネーを凝視ているので其理由を問ふたら彼曰く「髭でもはゑて來はせぬかと視てゐるどうも女とは思はれぬ樣です」ミス、ネーは後米洲に來てモルゴメリーと云ふ哲學者の妻となりました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

想苑

我國女子の將來

成瀨仁藏

昔から新らしい運動が起ると、必ず之に反對した運動が附隨して生じて參りました。近頃女子教育が盛になつて來た結果、女子の覺醒解放が叫ばるゝやうになりますと、直ちに他方からは先づ其臺所を顧みよと云ふ保守的な論議が表はれてまゐります。内を外にして出歩きをする婦人に碌なものはゐないと後者がけなすと、前者は女子の使命は厨房にのみ制限さるべきものではない、從前の不自然な壓迫を脫して新らしき働きをなさればならぬと叫ぶ。之を青年の子女を有する父兄に尋ねますと、多くは其取捨に迷つて子女の希望に任せる積りですと云ふが最も譯の解つた人々で、何等確實なる意見を抱懷してゐないやうであります。然し時代の進歩は何時までも斯くの如き議論に時を費して居る事を許さない。事實は何うにか解決をつけて確乎たる進路を明かにしなければならぬ時期になつて居ります。さて之を如何にすべきかといふ問を以て、記者は一日成瀨女子大學校長を目白臺にお訪れ致しました。次は其聞き得たる概要にすぎませんが、先生の御意見は現代婦人に對する最後の斷案として、吾々の最も愉快に感じた處であります（記者）

一

世界の進歩は駸々として一刻もやむ時がない、眞に日進月歩の有樣である、斯の如き趨勢に參じて、凡ての智識を消化し凡ての事業を經營して、文明の美果を今日に收めた功は、殆んど男子の力であると言つても過言ではあるまいと思はれる。女子は表面上殆んど與つてゐない姿を呈して居る。殊に東洋に於ては之が爲めに男尊女卑の風習を馴致して現代に

至るまで尙この傾向より脫する事が出來ぬ有樣である、而も女子は斯の如き累代の偏頗なる習慣の下に生死して、格別何等の苦痛を感じなかつた樣に見えたけれども、然しながら時代の進運は敎育の普及を來し、敎育の普及は其結果として個人の覺醒を促す事急に、永く婦人をして從來の束縛の下に晏如たる事を許さないのである。女子自身が斯の如く感じて來るのみならず、社會夫れ自身が實に女子をして斯る境遇に立たしめなければやまぬのである。男子が社會の表面に立ちて自由なる活動を續けてゐるときに、愚鈍にして何等社會の進運に伴はざる女子の存在を許すといふ事は、明かに矛盾した事である。女子は固より男子と異つたる使命を有する、直ちに男子と全然同方面に活動し得るものとなすは、今遽かに斷言する事の出來ぬ問題であるけれども、然れども男子と共棲して一家經營の重責に任じ之を內にしては子女の養育と良人の內助と、之を外にしては社會の進運に伴ふ幾多の現象に對し、適當なる處理をなすべき使命を有して居る。此使命を完全に果す爲めには、實に聰明なる智識と明確なる識見とを要する、若し夫れ女子が從來の跼蹐たる小天地に蟄居して、徒らに活社會から隔離して生存して居ては、如何して此等の職責を果す事を得やう。高等敎育の不必要を唱へたり、或は臺所にのみ女子を押し籠めやうとするが如きは、是れ社會の進運を無視した暴論と云はざるを得ないのである。

二

而して又一方政治史的方面より觀察して來ると、尙ほ明かに這般の道理を看取する事が出來ると思ふ、卽ち古代に於ける國家は多くは君主專制の政治であつた、上に立つ人一人の意志の儘に、其國の政治をやつたのである。之れ古代に於ては實際の强者が、其部落なり又は團體を征服して、自ら君臨したのであるから、勢ひ君主獨裁といふ結果になるのは敢て怪しむに足らないが、然し人智漸く開けて、人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は各自獨立の思想と技能を以て社會に生存するやうになり、社會制度も整然として秩序正しくなると、專制政治は茲に其姿を沒して、人民の意志をも容れる機關を有する政體が表はれて來る、今日に於ては立憲代議政體が最も完全なるものとなり居るのも之が爲めである。現今列強の政治組織は種々あつて一樣な立憲代議政ではないけれども、其運用の實に於ては、民衆の意志を尊重して、之を容れるやうな組織になつて居る、兎に角之が最も進歩した政治組織の形式と云つてよいのである。

一家は猶ほ一國の如しで、斯くの如き國家の政治組織はやがて一家の政治組織でなければならぬ、一家の政治組織のみが、この歷史的大勢から獨立して存在する事は出來ないのである。然らば從來の固陋なる習慣に捕はれて、女子を臺所の一隅に蟄居せしめて、何等其權利を認めず、家長獨裁の政治を行ふ如きは、之れ實に古代朦昧の時代に於ける組織を、文明の今日に强ゐやうとするものであると云はねばならぬ、若し之が專制政治になれた昔の女子であつて、何等覺醒の刺戟に觸れなかつたものであるならば格別、現今の如き女子敎育が盛大になつて、凡ての方面に於て女子の自覺を要求する事象に滿てる時に當つては、如何しても專制政治を打破して代議政治を施さねばならぬ時代である。故に一家の政治最進歩した形式のものでなければならぬ、若し果して然りとするならば、男子の相談相手たる女子が、眞によく社會の事情を理解し、良夫を助くる才能を有するものでなければ、決して良好なる代議者と云ふ事は出來ないのである、想ふに最も良き家庭は聰明にして健實なる妻を其相談相手として有する事であらうと思ふ。此處に至つては何人と雖も、女子の高等敎育を不必要とし、或は廚房にのみ隱るゝ事に贊成する者は斷じてない筈である。

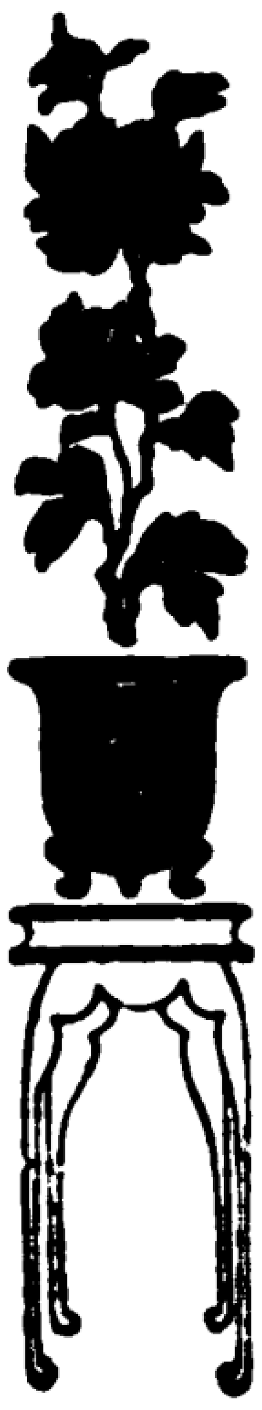
尙ほ斯の理を推し擴げて行くならば、女子が一國の政治組織にも當然關與し得る時代が來る事は明かである、現今歐米に行はるゝ女權獲得運動の如きは

其手段方法に於ては尙ほ幾多の批難を免れない處があるにもせよ、女子が男子と相對して相當の權利を有し得る時代は早晩來るであらうと信ずる。

三

時代の進運は益々女子の敎育を必要となす事は、以上の理由で明かであるが、猶ほ此處に忘るべからざるは、女子の精神的發達と共に身體の健全なる發達を計らねばならぬ理由の存する事である。此の問題に關しては敢てくど／＼しく云ふ必要はないと思ふが、女子の健康問題は其精神的方面よりも却つて忘れられたる處のものである。羸弱なる女子が決して强健なる子女を擧げ得ない事も明かなる事實であるし、不健康なる女子の家庭を經營する場合、若しくは子女を敎育する場合等に於ては、寧ろ慘憺なる悲劇が多く胚胎されるものである。近來歐米に於て人種改良論の漸く盛に唱導せらるゝのも、實に斯の間の弊害を矯めて、國家百年の基礎を固うせんとするに原因して居る。予は此の意味に於ても女子の敎育は今後益に盛にし、精神の方面に於ても身體の方面に於ても共に健全眞實なる女子を作らねばならぬと思ふ者である。其方法論に至つては更に詳細なる議論を要する處であるが、要するに我國將來の女子は男子と相携へて其使命のある處に向つて齊進しなければならぬ運命を有して居るものである。更に聰明に更に健かにならなければ、到底時代の要求する處に應ずる事は出來ぬと思ふ。

(記者に微恙ありて執筆非常に遲れしため、或は先生の意を誤りたる處あるを恐れて居ります、校閱を經る筈で御座いましたけれども、時日切迫してそれも叶ひませんでした。先生並に讀者諸姉に深くお詫を申します。(楠男生)



婦人解放問題の眞意義

内ケ崎作三郎

▲婦人問題の起原

婦人問題の叫ばるゝに至りしは、歐洲に於ても極めて近時の事である。十九世紀の初め迄は、彼國に於ても婦人の使命は家庭にありとし、婦人は家庭の中に引籠りて居つて、唯僅かに我國より自由であつた位のことである。

今歐洲の歴史に就て考ふるに、古代の猶太婦人は多くの自由を有せず、又希臘は文學美術には非常に發達せしも、ソクラテスやプラトーの如きも婦人の權利と云ふことは認めなかつた。羅馬又た然り、彼等は法律思想に於て、文明諸國が今尚ほ參考とするまで發達せしものありしかど、婦人に對しては何等特別の自由を認めなかつたのである。然らば基督教は如何にと云ふに、これも亦必ずしも婦人に權利を認めない。聖書を見るに、イエスは凡ての人は等しく神の子であつて、婦人も男子も同等であるとしてあるのは諸君の知らるゝ通りである。然るに使徒パウロの如きは、常に之を抑へ、婦人は教會にて覆面せねばならぬとか、萬事に控目にせよなどと云つて其婦人觀は極めて保守的であつた。從て代々の基督教會のイエスの教訓と反對に、婦人の自由は常に束縛せられ、婦人は常に男子の下風に立つものとし、益々男子に抑制せられてをつたが、こゝに一の變動を來した。夫れはかの十字軍戰爭である。此戰爭は聖地恢復、異教徒征服のために起つたものであつて、

歐洲の重なる國々の男子は擧つて戰爭に出で、内を顧みるの遑なく、一家に關する内外の事、悉く妻女に任ねられた。玆に於てか自然の勢として女子は其の家庭に於てのみならず外に對しても勢力を有するに至つたのである。十字軍戰爭は惡戰であつた。が若し十字軍が何物かを歐洲文明に貢献せし所ろありとすれば、それは女子の權利を發達せしむる端緒

を開いた事である。

十六世紀の宗教改革に先ち、彼の所謂文藝復興時代に及んで、文學美術を研究する婦人達が現はれ、一種の清新なる態度をもつて人生に對したから、十字軍にて發展したる婦人の思想は、更に文藝復興期に及んで智的に發達するに至つた。十六世紀に入りて、彼のマルチン、ルーテルが公然其の掟を破りて、

尼僧と結婚したのは、我國にて親鸞上人が肉食妻帶をなしたると同樣、實に當時の大問題であつて、婦人は罪の化身であるとの在來の思想を打破したるものであつた。

▲家庭生活の變化

如斯して近代の歐洲となつた。併し何と云つても婦人は家庭の人にして、婦人を家庭以上のものと自覺する者は殆ざなかつた。然に十八世紀末の初めに於けるより十九世紀の所謂產業改革卽ち鐵道汽船紡績其他應用科學の發明に從ひ、社會は非常なる大變動を生じ、凡ての仕事が器械や藥品を用ゐる事となり、それが十九世紀半ばに及んでは益々發達し、社會生活の狀態は非常なる變化を來たし、家庭にても科學を應用して、其結果は家庭に其の影響を及ぼし、從て家庭生活其もの丶上にも大なる變化を來すに至つた。

由來我國の家庭を見るに實に舊式である。文明と相去ること寔に遠い。日本の臺所は一段低くなつてをる。これ玆に働くものは一段低きを意味するので、ツマリ下女とか下男とかは家族の者より一段劣等なものとしてある。神樣までも臺所の神樣は別に祭つてをる。日本の臺所は第一番に改良せねばならぬ、之れは婦人問題を解決する爲には先決問題である。歐洲にては十九世紀の半頃、卽ち產業改革の時代に、臺所も改革せられた。女中が三四人もをつた家は、家庭に種々なる發明品がはいつた爲めに、一人で間に合ふやうになつた。そこで之れまで家庭の事にのみ齷齪して居つた婦人も自然外に出て働かねばならぬことゝなつた。之れが婦人解放問題の起つた第一の原因と云はねばならぬ。日本人は臺所に現代科學の恩惠を應用せぬから、手がかゝつて、朝から夕までごた〳〵して居るのである。婦人は家庭にばかり立て籠つて居る必要はない。ごし〳〵社會に出でて敎育事業や、慈善矯風事業や、敎會のために盡さねばならぬ。夫れであるから婦人解放問題は臺

所の改良と相俟て行はるゝ筈のものである。故に日本婦人は先づ臺所の改良を行はねばならぬ。

▲女子高等教育問題

次には女子高等教育の問題である。女子の高等教育は、歐洲に於ても十九世紀以前までは決して左程進んで居つたとは云へない。十七世紀には英國の女王エリサベスとか蘇國の女王メーリーとか、上流の婦人には非常に高尚なる教育を受けて、數ケ國の國語に通じてをつた人もあつたが、之れはホンの一部分で、日本でも彼の奈良朝時代に宮廷の女官達が非常に高尚なる文學に通じて居つて、一般國民には何もなかつたのと同樣である。眞の教育の理想は、一人や二人ではない。萬民が等しく之を受くる事である。そこまで行かねば女子の教育も何等の價値はない。十九世紀の初期、歐洲に於て初めて女子の高等の教育の唱へられた時には非常に反對者があつた。今日に至るまで牛津や劍橋の兩大學などでは、講座に列することは出來るが、學位はくれぬと云つてをる。併しロンドンやマンチエスターや、エデンボロやクラスゴー等の諸大學では女子にも學位をやるのである。兎に角今日歐洲の婦人は實に盛んな威勢である。智識に於て、識見に於て殆んど男子に劣らない。一昨年の夏オックスフォード大學にユニヴアシテー、エキステンションの夏期學校があつた。これは「世界に於ける伊太利の地位」と題する問題で英國屈指の學者達が、宗教、文藝、藝術、政治經濟、社會等の有ゆる方面から、伊太利に就ての研究の發表であつたが、出席者總數千八百人中、婦人は千三百人で、中には妙齡の女子もあれば、六七十の老嫗も居つたが、熱心にノートに扣へたりなんかして居ることなどは、彼等が如何に研究の精神に富んでをるかが分る。

斯の如く歐洲の女子高等教育は進歩してをる。さうして内は家庭には手が餘つてをる。何れの方面にか其力を發せねばならぬ。之れが歐洲に於て婦人解

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

放問題の起り來つた原因である。日本婦人の智識の程度低きは婦人雜誌を一見しても分る。見よ滔々たる婦人雜誌、何たるさまぞ。其の思想の幼稚なる甚しいものが多い。今や日本の女子高等教育問題は陸海軍問題よりも重大なる問題である。

▲歐洲婦人の現狀

第三の原因は歐洲に於ては婦人の數が男子より多くなりつゝあることである。之には種々の原因がある。たとへば英國では男兒の出生率は女兒のそれよりも多いが、ごう云ふものか生育の上になると前者は育ち難いので、統計によれば男兒の死亡率は女兒のそれよりも遙かに多いのである。然るに近代の文明は死亡率を減少して來た。之れは衞生思想の普及の結果である。昔は子を生のは女の殆んど唯一の義務であつたが、かう人口が增加して、しかも死亡率が減つたとすれば、女の義務は子を產む事のみに限られぬ狀態となつたのである。

又人口增加の結果は男子が未開拓の國土に向つて移住する事となつた。歐洲にては每年々々加奈陀、南亞米利加、印度、亞弗利加等に澤山の男子が移住するのである。而して女子はさうは行かぬ。ソコで女子が多くなるのである。彼等はやむなく獨立の生活を營まねばならぬ。之迄の文明は表向は男子專有の文明であつた、之からの文明は女子が男子と共に表向きにやる事になる。併し女子が男子の仕事を奪ふのではない。今迄の社會は脂油ののらぬ社會であつた、之からは社會の表面に婦人を採用して、婦人獨特の美德、卽ち優美、同情、從順等を入れて、社會を圓滑にするのである。之には深い意味がある。

歐洲の婦人問題を唱ふる婦人等は道義の精神に富でをる。彼等は新たなる義務責任の感の下にやつてをる。曩日我國に來朝せられた、ロンドン大學社會政策學教授シドニー、ウエッブ夫人の如きは大博士の學位を有する人であるが、其財產を擧げて、夫婦相伴に市制の刷新、貧民の救濟、其他社會問題等に

盡力してをる。此ウエッブ夫妻は實に英國に於ける理想的の夫婦として國民の欣慕する所の方で、實に英國思想界の指導者である。又ベーサント老夫人は非常に印度思想に通曉した人であるが、其抱負は實に大なるもので、しかも其聲は雷の如く、男子をして後へに瞠着せしむるものがある、實に英國第一流の婦人雄辯家である。此の勢を以て東西思想の融合や、世界諸宗教の調和や、平和問題のために侃々諤々の辯を揮つてをる。

其の他彼の婦人參政運動者の如き、實に偉い勢である。彼等は婦人に參政權を與へよ、參政權を與へよと絶叫して、議會に吶喊し、內閣大臣の官舍を襲ひ、甚しきは總理大臣を路に要して之を擲つた。此等の方法を用ゐなければ保守的の英國は動かぬのであらう。予は彼等のやり方は隨分酷いと思ふが、併し其熱誠には同情を表し尊敬を拂はざるを得ない。何故に彼等は婦人の身としてかゝる激越なる運動を敢てするか、これは婦人に對する社會の待遇が低いから、食料に於ても、衣服に於ても不自由をして、已むを得ず、墮落して暗黑裡に落ち行き、食へないから仕方なく貞操を汚すに至る事を嘆き、どうしても男子と同等に社會の待遇を受け、同樣の收入を得なければならぬ。これには參政權を得、議會を動かして婦人の待遇を上進せねばならぬ、之れ彼等が選擧權を獲得せねばならぬと運動する理由である。彼等は我等は殉教者であると叫んでをる、彼等は多くの男子よりも、又同性者よりも反對せられ、侮辱せられながら、撓まず屈せずやつてをる、其の精神は實に感服せざるを得ない。序に一言しておきたい事は彼等の體格の强健なる事である。彼等は實に潑溂たる元氣を以て不斷の努力をなしてをるが、毫も意氣の衰へたるを聞かない。身體が健康でなければ何事も出來ぬ。靑い顏をしてヒステリーばかり起して居つて、解放も何もあつたものでない。これ又重大なる問題である。

▲日本婦人の覺悟

我國に於ても婦人問題は大に靈的にやらねばならぬ。單に自分の虚榮心から來るならば、眞の意味の解放ではない。第一日本婦人の重大問題は迷信を打破する事である、一體日本人ほど傳說と迷信とに捕はれてをる國民は世界に少くない。田舍などに行けば易者のはびこつて居る事はひどいものである。大事な娘の嫁入も八卦できめる、道樂息子も八卦でなほさうとする。何んでもかんでも易者に行つて定めるのである、夫れで何も不滿足を感ぜぬから情けない。其の他迷信のくさ〴〵を擧げたならば日も猶ほ足らないであらう、實に驚くの外はない。これは婦人が第一に自覺せねばならぬ所ろである。

現代の日本の男子には甚だ缺點が多い、之れは餘り婦人が柔順であつたから男子が我儘を働くのである。夫とても決して便りにならぬ、時に反抗する必要がある、反抗して彼等を覺醒せしめねばならぬ。然らば何を以て戰ふべきか夫れは宇宙の實在を信じ、神と共に起つのである。神と共なる淸き高き生活をなし、信仰の力によりて戰はねばならぬ。現代の日本婦人は信仰がない、信仰なき婦人が出しやばると、社會は夫れに對して色々とケチをつける、又實際つけられる事もする。今日歐米の婦人問題のために働く婦人達に何故に其の人格に對して批難攻擊なきか、之れは永い間、基督敎の訓練をうけて人格の修養をしてをるからである。卽ち宗敎上の堅固なる信仰を以て、熱誠努力しつゝあるからである。此宗敎上の信仰もなく、唯だ漫然と社會のためにとか何とか云つてやつた所が駄目である。神の力を深く感じ、人類同胞のために、正義を主張する時に、初めて何等の弊害なくして、正々堂々とやられるのである。之を要するに我國の婦人問題は先決問題として身體の健康を彼等歐米人の如く增進する事、智識の程度を高むる事、宇宙の實在、卽ち神に對する信仰を確得すること、此三つの上に眞に確固たるものを握らねばならぬ。之れを解決する時に、初めて婦人解放問題の眞意義を見出すであらう。

（本鄕敎會婦人講演會演說筆記）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

最大事を忘れつゝある女の生活

小橋三四

△聖書と料理の本と

此處に聖書と料理の本とあるとしませう。女は大抵料理の本を手にして見入りませう。それも惡い事ではありますまい。疲れて歸る夫に何か目新らしい味よき調理をして喜ばせう。愛する子女の健やかに生ひ立てよとの切な願ひから、滋養ある料理を工夫する、誠にやさしき美しき心掛けと申さねばなりません。然し然し食物一つにしても、限りある調理の方法をもて、人の心が滿足するものでありませうか。否々、その調理に美しき妻の心、やさしき母の心が籠らなければ、どうしてその日々の食事を感謝して食する事が出來ませう。さればこそ腕利きの料理人が苦心した佳肴珍味の幷らぶ華族や富豪の食卓よりも、背戸の畑で堀つたといふ芋を麥飯にそへた無雜作の膳に、幸福と健康と感謝とは常に溢れて居るではありませんか、かうして見ると單に調理などいふ事は誠にはかない事と申さねばなりません。

△外部のみの家庭改良

かく申せばとて家庭改良の攻擊をすると早呑み込みをなすつてはいけません。人は洋服を着る、市街には電車が通ひ、自動車が走る。然るに臺所のみは朝鮮邊りその儘であるといふ片輪な進步を誰れが喜びませうか。一日も早く家庭の仕事が秩序的になり衣食住が次第に研究せられて、市街と同じく文明の利器が家庭の内にも用ゐられて、その生活に無駄がなくなり、人の健康と壽命の增されて行く樣に改良

せられる事は誠に望ましい事であります。然し今の婦人は餘りにこれ等外面の進歩を追ふに忙しく、人としての最も價値多き内なる人の成長を忘れつゝあるのではありますまいか。

△女學校の同窓會

春秋に開かるゝ女學校の同窓會といふものを大抵の方は御承知で御座いませう。舊友に會ふといふ嬉しさは卒業の一二年間位が精々でありませう。もう三年目位から、そろ／＼往年の理想家も、氣焔家も世間染みた妻君や、過去の人を見るやうな母親になつて居るのが多いのであります。彼れ等は金あり、地位ある夫を持ち、氣樂な日々を送つて居る人を最上の仕合せ者と羨み、愚痴半分、自慢半分に夫の取沙汰、世帯の苦勞話をする外は一向何事にも興味がないらしい。もしこの時互に誰れが一番正しい生活を送つて居るか、誰れが神につける最も尊き仕事をなしつゝあるかを尋ねて、これを認めて、及ばざるは習ひ、持てるは與へ、涙ある者には心よりの同情を注ぎ、挫けんとする者には勇氣を與へ合ふ事が出來たならば、僅に年に一二度の會合でも稍もすれば無意味に流れ勝ちの婦人の生涯にどれほどの刺戟を與へるかも判りませぬ。然し現今の樣な狀態では、互に力を削がれ、寂しさを增して別るゝのみでありますまいか。さてこの厭はしき狀態に陷るのは何故でありませうか。

△世俗に流るゝ徑路

學校に在る間の倫理は只冷たき理論として頭に殘る斗りであります。社會に出てゝは敎會に行く僅かの人の外は修養の機關を持つて居りません。家庭に入つて後は極めて複雜煩瑣な家事に忙殺せられ易いのであります。且つ幼きより祈る事も、深く考へる事も習はぬ女子は、妻となり、母となるといふ人生の一大事に遇ふとも、この深き意味を考へも敢へず、匆々と過ぎて終うのであります。況して日常の料

理、裁縫、交際等といふ事には、何等の意義をも考ふるなく、遣繰算段に一日暮れ、一年去り、三年逝き、十年夢の間に過ぎて終うのであります。

△神は女を作り給へり

「神は女を作り、男子は女らしきものを作れり」といふ論文を英國のさる女學者が書かれたさうであります。誠に意味深き言葉ではありませんか。幾代か女子は男子の必要に從ひて敎育され、生活して來ました。今日の女性は神の作り給ふた女とは自ら異つたものとなつて居るのを免れますまい。私共は靜かに神の御前に膝づいて、その作り給ひし女といふものを考へて見やうではありませんか。女はたゞに母となる特權を與へられた斗りではありません、また巧妙なる指先きを與へられた斗りではありません。いとも妙えに響く心臟、奇しき力ある頭をも與へられて居ります。そして凡ての事を感じ、凡ての事を考へ、目に見え、手に觸れ、耳に聞く以上のものを

慕ひ求め、またこれを知らんとする慾求をも抱いて居るのであります。これは確かに女子が尊き人間として、神を見る事が出來る靈を與へられて居るからでありませう。幸にして宗敎によりその靈の眼の開かれたるものは、世間の所謂幸福なりと思ふ、富とか位とか云ふものゝいと少さく、なほ他に最大事あるを常に思ひ、これを慕ひ、之れを知らんと務めつゝあるのであります。卽ち神の國とその正しきとを求めて、我れを無限に延ばして行く樂しみを知るのであります。多くの人は夫を失ひ、愛子を失ひ、世に失敗してその財產、地位を失ひ、孤獨、寂寥の感に堪へぬ時に、湧然としてこの世以外の世界を求むる念が湧き出づるのであります。これは失意の人に惠まるゝ大なる神の思召でありませう。然しながらもし心を潜め、わが身に付ける凡ての虛榮を去つて、靜かに神を呼ぶ事を知る者には、いかなる人、いかなる時にも、その恩惠は滿ち溢るゝ斗り與へられて居るのであります。私共はその恩惠を占領する

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に任せて、わが領土は神の國に近づいて行くのであります。

△誤れる生活を匡す方法

我れ我れはこの世の中にあつて、しかも世俗から離れる爲めに、常に靈の糧となる讀書を心掛け度いものであります。「何かよい本はないか」とはよく人が問ふ事であります。有益な書物を探して讀む事も善い事でありませうが、然し聖書一卷は信者、未信者に拘らず熟讀されん事を希望するのであります。その最初の山上の說敎一つにも限りなき敎訓が含まれて居ります。否「心の貧しきものは幸なり」といふ一句もなほ、わが智識、能力につき失望する事多き人間をどれ程力づけるかも知れませぬ。また一事に遭遇する毎に、それに籠る深き神の思召を伺ひ度いものであります。卽ち祈禱する事を覺え度いものであります。私共は屢々艱難に遇ひ、神は何の意味を以て、小さき身に堪へぬ苦痛を與へ給ふかを疑ひます。然し「萬づの事を公平にさばき給ふ主は、われに不義をなし給はじ」とその御前にひれ伏して祈る時、我れ等の荷ふべき苦痛の當然なる理由を見出し、この苦痛に服して、しかも感謝に滿つる事が出來ます。而してわが靈の不純なるものは、この苦痛を凌ぐ時、鍛へられ、聖潔められつゝ行くのであります。

聖書と祈禱と、こは最大事を忘れつゝある婦人の生活を匡す最上なる方法であると信じます。

神樣の親類

宅の長男が六つばかりの折、岐阜に大地震がありまして慘狀を極めたことがあります。京都から慰問の爲に人を送つたり看護婦を派遣したり致しましたが其騷ぎを見まして居ました子供は「ナゼ京都にはそんな恐ろしい地震はないの？」と申てや、考へて居ましたが、「アー分つた〳〵、京都には神樣の御親類があるからでしやう、ホラ僕も神樣の親類でしやう誰々さんも親類でしやう」と信者の内の子供の名をあげて申ました　（みや子）

男女問題の宗教的意義

安部清藏

一

一日閑を得て、上野動物園を見た。象や河馬も、仲々人氣を曳て居るが、一番人の群つて居るのは、猿群の周圍であつた。之れを見て居る人々の興味は、珍らしい象や河馬に注ぐものと、餘程違ふやうで、何んとなく身につまされると云つたやうな所がある。特に母猿が子猿を抱いて、彼所此所と逃げ廻り、又地に下りて餌をあさる時でも、絶へず手を曳いて居る樣などは、婦人達に特別注意されて居つた。人は兎に角、自分の心持ちを、向ふに寫して看る事を欣ぶものと見へる。

歸途帝國劇場の前を通つたが、入場者の夥しい事、仲々の景氣である。之れも高い代價を拂つて、自分の心持ちを寫して行くのだなと思ふと、一種の好奇心に驅られて、一寸其樣子を見たくなつた。何が偖て俗惡極まるもので、テンデ御話にならぬが、ソレでも退場する人もなく、惡口を言ふ者もない。皆感心して見て居る。女優のせいでもあらふが、實に不思議なものと思ふた。「姉と妹」は二幕もので、温良貞淑な姉娘が、新歸朝の紳士と結婚すると云ふのを、お轉婆の妹娘が、大々的獨身論を唱へながら、愈と云ふ所で、姉を出し拔いて、自ら其紳士に結婚を申込み、ソレが成功して、反つて姉娘が獨身生活を餘儀なくされると云ふ筋、「結婚反對倶樂部」は素より喜劇で、馬鹿らしいものではあるが、アレで幾分か當世の婦人の心持を寫して居るものと見へる。若しアンナ俗惡なものが、當世の人心を寫したもの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

とすると、實に明治の御世は、呪はれた時代と言はねばならぬ。併しこれは日本の今日のみでない。此不安な俗悪な風潮は、今や世界を風靡せんとしつゝあるのである。新人の前號に出た海老名一雄君の氣焔なんか、仲々すばらしいものである。アンナ風に成るのは、決して無理のない所で、コレからの男子

は、世界の潮流につれて、大に發展して行くに違いない。然るに日本の教育界なんかでは、無暗に舊弊がつて、良妻賢母主義のみに隱れて仕舞つて居る。ソンナ風で折角教育した娘達が、當世の男子に不向きとあつて、思ひもよらぬ獨身生活を餘儀なくせられるやうに成りはせぬか。隨分女の子を持つた親達

は心配である。そうだと云つて、今の泰西流儀の女子解放を實行した所で、其の結果は果してドウか、泰西人士すら頗る不安に襲はれて居る今日、到底あんな眞似は出來まい。併し泰西の風潮は、遠慮會釋なく浸入して來るから、今の日本は唯茫然として、手を束ねて居る譯には行かぬ。何んとか一定した方針を以て、女子教育をして行かねと、トンデもない事になつて仕舞ふ。全體男女問題ほど、複雜にして微妙なものはない。此問題を一夫一婦の倫に定めたのは、必ずしも基督教の專賣特許ではないが、先づ以て基督教の根本倫理の一つとせられて居るものである然るに近來此一夫一婦制に對し、大反抗を起す事となつて、自然主義ともなり、女子解放問題ともなり、離婚問題、職業問題ともなつたのである。若し此勢にして全勝を占むる事とならば、基督教の根本倫理も、自然破砕される事となり、從つて基督教の社會組織も到底行はれぬ事となる。ヨシ全勝を得ざるまでも、今のやうに女子の鼻息が荒くなつては、愛の德とか、獻身犧牲とか云ふ道德の發揮さるべき道が無くなつて仕舞ふ。予の經驗中にも、頗る困却した事がある。或る婦人は牧師たる予に向つて、卿等男子は女子に對して愛だの獻身犧牲だのを說き給ふなれど、ソハ男子を立脚としての議論のみ、到底女子の滿足し得るものにあらずと。而して更に進んで、女子のみ子を產まざるべからざるは、天の不公平なりと叫んで、無神論に陷るを意とせない樣子であつた。勿論之れは僻論ではあるが、近代の婦人中に、斯くの如き自覺と云へば自覺、反逆と云へば反逆を敢てするもの丶出來たのは、否むべからざる事實である。

二

元來婦人のみ子を產まねばならぬと云ふ事は、一寸困つた問題である。予が妻は妊娠病で死んで仕舞つたが、成る事なら、三人の中一人位は、男が產みの苦しみをしてやつてもと思ふ位である、併しソレ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は出來ない。實に氣の毒と思ふが、矢張り女が産むより外に致し方はない。コウなると女と生れて來たのは、誠に不幸と言はねばならぬ。古來女を以て不幸なものと見た例は、實に多い。大抵の國では、皆女を不幸なものとしてある。此不幸な女をして、其運命に安んぜしむる爲め、色々な教說が出來て來た。所謂因果を含めると云ふが如きは其一ッで　兎に角女と生れたのは、何かの因緣だから、あきらめるより外はない。あきらめて一生苦しみをすれば、後世で安樂をする事が出來ると云ふのが、佛教なにかの教へる所で、今日の日本女子は未だに此教で滿足して居るやうだ。基督教では、原罪說と云ふのがあつて、此世に罪を作るやうになつたのは、エバと云ふ女が第一に、神の命令に背いて、智慧の實を喰つたからで、其罪の報として、女は子を産まねばならぬ事になつたとしてある。之れも前の因果を含める筆法と、大同小異で、歐米の舊婦人は大抵之れで滿足して居つた。即ち彼等は、善良なる子を産みさへすれば、多くの罪障を滅する事が出來ると思ひ、進んでは救世的使命を有する人物を生む事が出來るとも考へ、子を産んで初めて女の世に盡す義務をも全ふし得ると云ふ風に考へて、偖てこそ今日に至るまでの、良妻賢母を作り出したのである。然るに今や此因果說は、洋の東西に於て、其權威を失ふ事になりつゝある。西洋の婦人は言ふまでもない。日本の婦人も、婦人なるが故に、特別なる苦痛を敢てせねばならぬと云ふ理由を見出す事が出來なくなつた。斯くの如き根本教說が權威を失ひつゝある今日に於て、其結果たりし良妻賢母を理想とした所で、到底出來る譯のものもない。

歐米各國にも餘程反動が起つて、切りに家政向きの教育が、唱導されると云ふ事だが、之れは文明の逆行であつて、決して成効するものでない。第一如何にして女の方が罪惡の發頭人であると云ふが如き、原罪說を維持する事が出來るか、ソレが出來ない以上は、到底女子をして、其苦痛多き運命に滿足

せしむる事は出來ない。然らば今後はドウしたらば能いか、之れが刻下の大問題である。

三

近代思想の大豫言者ゲーテは、其名著ファウストに於て、此大問題を論究した。マーガレットはファウストのため妊娠した其結果として、兄を殺し、母を殺し、遂に其產んだ赤子を殺した。而して囹獄に捉はれの身となり發狂した。彼女をして斯くならしめたのは、原罪說の言ふが如く、女の方が發頭人にあらずして、男の方が發頭人である。而して男の方が罪の苦しみを多く感じて居る。マーガレットの罪は、只男を思ふ結果に外ならぬ。男を思ふために兄の死を招き、母の死を招き、赤子の死を來し、自らの發狂者となつた。發狂したマーガレットには、殺人の罪も苦しみの種ではあつたが、兄を慕ひ母を思ひ子を思ふ方が强かつた。特に男を思ふ心が强かつた。惡魔にソヽのかされて、少女の事を忘れんとしたファウストはドウしても少女を忘れる事は、出來なかつた彼は惡魔を叱咤して、蹶然少女の捉はれ居る獄屋へ飛んで行つた。斯くて男女が相向つて立つた時、兩者は再び結び付けられた。其刹那に女は天に取られ、男は地上に遺された。後に響くものは、「ハインリヒ！、ハイリヒ！」と云ふ聲と、「救はれたり」と云ふ言葉とである。素より此大問題を解決したとは言へないが、大なる暗示を與へたといふ事は事實である。

ヤスヤナポリヤナの聖者も、又此問題に思を潜めた一人である。彼の思想は其の著書の多くに現はれて、之れを統一的に見る事は出來ぬが、夫のアンナカレニナの如きは、仲々思ひ切つたものである。愛なくして結婚した男との間に子が出來て、表面上何等の不滿もない筈だが、眞の愛情が湧かぬ。遂に他男と不義の契を結ぶ事となる。ソレが段々高じて、公然の秘密となり、妻から良人に對して、正式の離婚を要求するが、良人は頑として許さぬ。意地惡き

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

良人に捉はれながら、强情にも其戀を續けて行く。アンナは、實に當代の婦人の一方面を代表するものであらふ。併し彼にも平安はない。只た離婚の手續きを終へて、正式に其の戀男と結婚すれば、ソレで萬事安心せられるものと思つて居る。然るに彼女は遂に其目的通り、良人から離婚狀を握つて、思ひ思はるゝ男と結婚した。所が結婚後の彼は、決して幸福で無つた。嫉妬心と猜疑心が雲の如く湧いて來た。彼女は遂にヒステリーとなつた。戀男が親切を盡せば盡す程、反つて兩者の間の、離れ行く事を發見した。男はドウする事も出來なくなつたが、女も遂に其身を持つ途を失つた。彼女は男に初めて遭ふた時に見た慘狀を、自ら行ふ事となつた。彼女は遂に鐵道往生をしたのである。

筋から言へば、新聞の三面記事其儘であるが、此中に一種の謎が潜められて居る。權威のみありて愛なき結婚、愛のみありて權威なき結婚、何れも善き結果を與へるものでない。舊式の結婚法の不結果なるは言ふまでもないが、新式の戀愛一天張りの結婚も甚だ危險である。戀愛と權威、其調和を見出すのが尤も切要の問題である。

四

「評論の評論」主幹ステッド氏は、先年來宗教問題の歸結は、兩性問題に來るべき事を切論して居る。此問題から出て來ねば、宗教が此活きた世界に接觸する事は出來ぬと云ふて居る。如何にも道理ある議論と思ふ。

近來泰西の宗敎書なにかを見るに、餘程昔とは趣きを異にしたやうである。特に創世紀を畫題とする上に於て、美術家の見る所が、現代に緣遠きものは、餘り用ひられぬやうである。夫の原罪說を主張するアダム、エバの物語は、素より畫題として趣味のあるものであるが、ソレよりも第一章の天地創造の方に、仲々多くの趣味を發見する所があるやうである。アダムエバが、エデンの園から追ひ出される所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

も左る事ながら、創造第六日を表示するものとして、男と女が眞裸體で、相擁しつゝ立つて居る所などは、美術家の尤も興味を感じ、又手腕を喚起する所のやうである。

創世紀第一章に、「神は其像に似せて人を造り之れを男女とせり」としてある。之れは第二章以下の男を先づ前に造り、而して後女を其伴侶として作つたと云ふのと、趣きを異にして居る。第一章の方は、男女たる形が神の像であると言ふたので、夫婦一體の原理を宗敎的に說明したものである、此創造說に就ては、今爰に詳しく述べる事は出來ぬ。(詳細は予が講述した創世記講義にある)只創世記第一章には、男女恥づる所なくして、赤裸々のまゝ、相擁して立つて居る所に、神の像があると云ふ事を示したものと承知して置けば宜しい。

五

偖て然らば、男女問題の宗敎的意義とは、ドウ云ふ事になるか。因果說や原罪說には、到底女子をして滿足せしむる事は出來ぬ。然らばドンナ宗敎觀に據つて、男女の關係を說明すべきか。予はドウしても創世記第一章に歸らねばならぬと思ふ。斯く言へば、或はソレは復古主義であると言ふ人があるかも知れぬ。併し將來の希望を確かにせんとならば、ソレに應ずる過去の權威が無ければならぬ。恰も樹に根の張つて居る丈け、枝の伸びる樣なもので、過去に相當な根據が無い時は、將來の理想は多く空泡となつて仕舞ふ。ソコで予は創世記第一章に歸る前に、先づ自然の歷史に歸り、其初發の頁を開いて、男女の關係を檢査せねばならぬ。

勿論予は兩性進化の學說を此所に縷述する考はない。只自然に歸つて見て、夫婦となるに至つた徑路を辿つて見ると、生物は都て、一面不可抗的分化力によつて、分化發展すると共に、他面同じやうな不可抗的親和力によつて、分れたるものが又相合一化合して行くものである。此不可抗力は、色々に解釋

する事が出來るが、基督教では之れを神の命令と言ふのである。神の命令に據つて、萬物は進化し、又萬物は一つに歸するのである。ソコで男女が一つになると云ふ事は、人類分化繁殖の初めであつて、又分化相異したものが、一つとなる端である。故に夫婦が神の前に、相擁して恥づる所なく立つ姿、即ち相異りたる兩性が、一體として立つて居る像が、神の像であると同時に、宗教其ものである。宗教とは結び付くと云ふ義である。結び付くとは、神と人と結び付くのであるが、神と人と結び付く第一義は、男女相結ぶ所に發するのである。此所に眞率嚴正なる意味を發見せざる間は、決して本統の宗教は起らない。同時に本統の人生觀も起らない。舊的に於ける神が、嫉妬の神であり、他神に仕へる事は姦淫であり、神の事を輕んずるのは、褻瀆ことであると言ふのは、悉く男女關係から來つた思想である。新約に至つて、神人の關係を父子の關係にするやうになつたのは、他に理由のある事であるが、其代りに基督を以て花聟となし、人間を以て花嫁となすのは同じ思想である。

之れを要するに、舊約の第一にある、創世紀第一章の思想は、明かに男女問題を以て、宗教の發端となし、こゝに大なる意義の潜む事を示して居る。而して二章以下は、此神の像たる男女一體の姿が、何故今の如き悲慘なる歴史を作るに至つたかを、説明する物語と云ふ事が出來る。斯くて舊約の理想、メシヤの來臨を希望するに至つた徑路は、其中心に於て、男女兩性の適當なる調和を希求したる、人心の憧憬と見る事が出來る。基督が其豫言の結果として現はれたる救主なりとせば、彼の救は先づ第一に、此破れたる男女間の關係を、圓滿に解決する爲めである。即ち彼の十字架は、第一の人アダムとエバによつて破られたる神の像を、再び新たにして、第二のアダムエバを作らんが爲めである。第二のアダムエバは肉のアダムエバにあらずして、靈に據つて更生したる新人である。此新人がやがて新天新地の支配者主人公たるべきものである。(以下次號)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雑俎

旅のこゝろ

紫嵐

落葉をわけた跡もなく、枯れた花の影もない、忘れられた樣な小さな墓の前に、細い、冷たい秋雨を蛇の目にうけて立つた人の頬の白さ。足にからまる緋縮緬の長襦袢の裾をゆるく、さばいて、丁寧に、散り積つた枯葉を掃き清める指の美しさ。玉なす露の一つ〳〵が香いさうな白菊の枝をそろへて、手向た手を優しく合掌した肩のあたり。白い頸に雨の雫の傳ふまゝ祈をこらす信念にもゆる額。薄紫の線香の煙の行衞を見送る惱の深い目のうるみ。大理石の樣な頬に、かすかに、さした紅の淋しさ。丁度秋の心をそのまゝと云ひたさう…………。

やがて長い睫毛をたれて、蛇の目重さうに、落葉をシト〳〵と踏みしめてゆく後姿。濃い紫紺の帶に、染め出された白羽の蝶は、雨にぬれて、かすかに息でもしてゐるやうに見える。その蝶が木の影に見えなくなつた時ゴーンと寺の鐘が、ゆるやかに、森の奥の奥にまで響いて今更の樣に木の葉がハラハラと散つた。

私は、知らぬ森の中で、貴いほど美しい秋の精に過ふた樣な氣がして、菊の香のしめやかに香る、その墓の前を、しばし立去る事が出來なかつた。

◦　◦　◦　◦　◦　◦　◦　◦　◦

たゞ旅戀しと思ふ、淡い色に包まれて、丁度羽の

つかれた蝶が、秋風に流されて行く樣に、フラ〳〵とこの里へ來た。町はづれの友の家の門に辿りついて、障紙の間から、もれる赤い燈の光に、髪の亂れた旅の影の我身にさうてゐるのを見た時、私は、なぜかホロリとした。

その夜友と二人ローソクの濃い、赤い色のゆらぐのをみつめながら、靜に更けてゆく秋の夜を、うれしいと思つた。

結んだのは曙の夢であつた。

◌◌◌　◌◌◌　◌◌◌

日が暮れた

清い水で、すつかり洗いぬいた、畫筆の先に、ソツト含ませた黄の色で一はけ、はいた樣な、濁らぬ、落付いた色を、旅の袂を胸にかき合せて、眺めて居ると、うすれゆくやうな弱い光が、木の葉から、もれて、柔らかく全身を包む。私はジーツとして、又一人で都へかへる吾身を考へた。私は今、唯、旅の心が戀しく、旅の人の思がなつかしくて、この里まで來た。このまゝいつまでから何もかも忘れて、この空の下に、此淡い色に誘はれて、何處までも、さまようて行きたい。この哀さがつゞく間、私の心をつゝんでゐる、薄い〳〵絹は裂けはせぬ。このやさしい、あわれな樣な旅の淋しさが消えて動かぬ堅い淋しさに變る時、私の心はちぎれ〳〵になつてしまふ樣に思はれてならぬ。

みつめてゐた水に、くつきりと鳥が一羽、碧い色をぬいて、うかんだ。私は目を上げて黑い鳥の影が、小さく、小さく、とう〳〵見えなくなるまでみまもつてゐた。父鳥と母鳥が可愛いゝ首を動かして、まつてゐる巢に子鳥が急いで歸つてゆく………と、なぜか思はれる。

ア、子鳥が家に歸つてゆく………。

私は小供の樣に兩袖に、冷い顔をうづめて泣いた。泣いた後、私は秋にさん〳〵なぶられた樣な氣がした。

寫眞箱

せいさん

何處の家にも寫眞箱はある。老翁の寫眞、小供の寫眞、都の人、鄙の人、ハイカラの娘、蠻からの書生。水際立つた新婚の寫眞があるかと思へば、圓滿平和な家庭の寫眞があり、威かめしい軍服姿があるかと見れば、淑德な丸髷姿の奥樣がある。とみれば若い令孃の展覽會かと思はるゝ、校友會の寫眞。かと思ふと六ケしさうな顏をした先生のそれがある。寫眞箱ばかり興味の深いものはない。寫眞箱は宛然一個の小社會である。否な實に社會の縮圖である。

併し小なる我が寫眞箱は至つてプアーなもので、其種類も少くないが、趣味の點から云ふも頗る單調で、社會の縮圖となすべく、餘りに缺員が多いのである。が、小いなりにも一々これに註釋を附する時は必ずしも興味ないでもない。秋雨蕭々、さゝやかなる我が庵を訪づるゝ今宵、思ひ出で多い物のみを取りて誌して見たい。

其の一

椅子に坐つて、箱根笹の鉢を置いた卓子に、右の手を裕かに凭たせ、半ば左を向いた全身像、眼にはいひ知れぬ優和の相を現はして、喜悅と感謝とにあふれた容貌は見るからに人をひく、之れは我が友井鍋君である。裏面を見れば、濃茶色の臺紙に、東京本郷大橫町、松村東洋支店とすり込んだ上に、

『謹呈、明治三十九年九月九日受洗の當日撮影井鍋生』

と、一點一劃をも忽せにしない、活字のやうな楷書に、君が律義な性質をみせて、字並たゞしく記して

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ある。

彼のラフカデオ、ハルン先生が愛賞の地、東海道は燒津から程遠からぬ所ろに、源助新田と云ふ所がある。其名は頗る土臭をおびてをるが、こゝはかの所謂街道一の大井川に近く、今は宇津の谷隧道で穿たれてをる、昔の蔦の細道の名所に遠くない。富士は云ふまでもなく君が庭中のものである。こゝに育つた君が、ラフカデオ、ハルンを愛し、高山樗牛を愛し詩と歌とを愛するのは、元よりそのところである。君は漢籍に通じ、予がバイブルを尊重すると同じ程度に、論語を愛誦してをつた。予が基督教をすすむれば、君は儒教をすゝめた。予がキリストの愛を說けば、君は孔子の仁を語つた。

其君が、受洗の當日紀念として撮影するに至つた。これには深い、そうして奇しき物語がある。さうして、それは大部分が予に係はつて居るからおもしろい。

三十九年の春のことである。予は、はからずも劇烈な流行性の病にかゝつた。遊子、旅窓に病を得るばかりいたましきはない。此時のことである、君は美しき性質を遺憾なく發はして慰めてくれた。或日君はそこばくの卵を調へて予を訪はれた。君が歸つてから其卵を紙袋から出して、何心なく其の紙袋を裂いてみた。フト、予が目をかすめしは「キリスト」と云ふ文字である。そも何物とつぎ合せて見れば、書名はシカとわからねども、まがふ方なき基督教の類書、丈夫な日本紙で、しかも木板である。

書されたる個所は、希伯來書第十二章の三節、『なんぢら倦み疲れて心を喪ふことなからんために、惡人の己れに逆らひしをも忍びたる者を思ふべし――以下、十二節、是故に爾曹疲へたる手、弱りたる膝を健かにせよ』までである。

之れを見た僕は實に天來の靈氣に打たれた。かたく大能の攝理を信じた。奇跡は唯だ歷史上の記錄のみではないと思つた。而して心より神の恩寵を感謝して　獨り枕の濕ふまでに淚の祈禱を捧げた。

翌日、君が訪ねられし時に、予はありし次第を物語りて、さて云ふやう、

『君僕は決してこれを偶然の出來事とは思はんよ、之を見れば、まづどう見ても明治初年の物としか見えない、コヽら（初めの一行は聖書以外の文句あり）を見ると、矢張り病人に見せるために出來た書だね。其の明治初年に印刻した木板の本が、幾多の人の病床に訪づれた揚句、どう云ふ拍子にか、紙屑屋の手に買はれて、更にそれが紙袋屋に渡つて、多くの頁が分れ〳〵になつて、それが八百屋の軒につられてある。そこで君が昨日、卵子を買つて、オカミさんが、多くの袋の中から、特にこの一枚を引ちぎつて卵を入れて渡す。それは基督敎初まつて以來、何千萬と云ふ悩める人を活かしたヘブライ書十二章である。それが病める僕の枕頭に置かれる。三十有餘年に渡る此一枚の紙の徑路、偶然サ、と云へば唯一口だが、僕はどうしてもそう輕々に附し去るに忍びないよ。奇跡

だね、攝理だね、僕は恩寵の神は奇妙なる哉アーメンと云はざるを得ないよ。僕は昨夜も夜一夜、感謝の祈を捧げて、且つ君のために祈つたよ。』

僕の病患は日ならずして癒えてしまつた。口を酸くした百の議論も、唯この一夕の出來事には如かなかつた。君は徹底より、嘗て敵を落すために購つた、一冊のニユー、テストメントを取出し、異なつた意味に於て讀み初めた。

☼　☼　☼　☼　☼　☼　☼

『君、今度の日曜に洗禮を受けますから、君も都合が出來るなら來てくれ玉へ。』

明治三十九年九月九日午前九時に、富士見町敎會で植村正久牧師から、洗禮を領せられた。この寫眞は、卽ち其の日の紀念撮影である。

其の二

「輜重輸卒が兵隊なれば、蝶も蜻蛉も鳥の中」と云

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ふ俗曲がある。其輪卒のやうな服を着て、究窟そうに嚴然としてをる寫眞が、ヒヨツコリと出て來た。どうも俄か作りの兵隊さんのやうで、シツクりと、はまらない。夫れも其筈、裏を見れば「明治三十七年二月十六日、出征の途に上らるゝ時寫す、心友村瀬君」と予自身の手で記してある。思へば夢の様だ二月七日に日露遂に火蓋を切つて、十一日宣戰の大詔勅下るや、先づ近衛師團出陣とあつて、籤のがれ兵の末までも悉く召集せられ、君も亦召し出されて輜重兵に取上げられた。そうして急轉直下、滿洲の野に行くべき使命を與へられた。罷りちがへば、この寫眞は紀念の面影となるのであつた。

予が君に負ふところは信仰の兄としてである。一體予は此節の青年達のやうに煩悶とか、人生問題とか云ふやうな高尚な所から基督教に入つたのではない。予が家は神道で、父は極端な忠君愛國主義である。予は其頭で育てられたから、基督教などは國賊と思つてをつた。東京に來てある朝壹岐殿坂を通ると、青年學生が盛んに耶蘇の會堂に入つて行く。不屆な奴等だ、日本の粟を食みながら、外國の宗教を信ずるとは不埒な人間だ。ヨシ〳〵敵を倒すには敵を知らねばならぬ、予も暫く忍んで聴いてやろうと、夫れから秘密探偵でもするかのやうに、しば〳〵本郷壹岐殿坂の會堂に出入した。然るに予が頭は、深く入れば入るほど變つて來た。而して之れこそ眞の忠君愛國主義であると思ふに至つた。

此時分、恰も村瀬君と相知つたが、君がクリスチヤンであることは知らなかつた。唯だ何處となくシツカリした、愛情に富んだ、一口に云へば頼み甲斐ある青年と思つた。或日曜日の朝君を訪づれると、之から教會に行く、君も行かないかとの事である、予は成程、君は信者であつたかと胸で語つた。事情は違ふが、かの思出の記の菊地愼太郎と、粂頭道太郎と云ふ格である。

予は本來ならば、本郷教會で受くべきはづの洗禮を、君によりて下谷教會に導かれて、明治三十七年

一月二十三日に手塚新氏から洗禮をうけたのである。尤も其後牧師の更迭とともに教會に紛擾があつて、同志と共に脫會して、予は本鄉教會に轉つた。君の寫眞は猶ほ一葉ある、夫れは滿洲にあるの日、君が語學の才は上官に見出されて、外國從軍記者の接待役に拔擢せられ、遂に破格にも下士にまで昇進し、凱旋の時撮したものである。君出立に際して、携帶に便なる、掌中にかくれる程の聖書とその凸鏡とを求めて、陣中常愛に之を誦せしは、以て君が篤信と敬虔とを知るに足るのである。

君はどこまでも予が信仰の友である、否兄である。

其の三

予が寫眞箱に異彩を放つてをる一葉がある。齡の頃は十八か九、髮は生へるがまゝにして、無造作に左右に分け、眉秀で、鼻筋とほり、細面にして、口には云ふべからざる情緒をあらはし、女にもせまほしき顏なれど、眼光の爛として人を射るものがあるのは遉がにと、うなづかれる。

着物は綿ネルの襯衣の上に、何かの袷、其上から棒縞の羽織を折目正しう着て、紐は木綿の打紐。半身像で、稍や褪色してをるが、ハッキリとして、當年の面影を偲ばしむるに、こよなきものである。アアこれが將來日本の文學界をかざる、大文豪であらうとは、神ならぬ身の誰が知らう。

裏には、惡く云へば金釘式かもしれんが、實は趣きのある、洒脫な字體で、

『願クハ我爲ニ祈リ玉へ

明治十九年一月

德富健一

呈手塚大兄

と記してある。見るからにゆかしい香りがする。刷込は「愛媛縣、伊豫今治寫眞師柳瀨」とある。

手塚大兄とあるは、予が受洗の牧師、手塚新氏である。この寫眞は、云ふまでもなく手塚先生の寫眞箱から、「そんなに欲しけりや、上げやう」といふ正當な手順をふんで、予のそれに移つたものである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

或人が、「命の外は何んでも、君が望みの品を上げるから、譲つてくれ玉へ」と云つた事があつたが、予は應じなかつた。命の外は何んでもやるとは、酷い御執心であるが、夫れに應せぬ予も亦た酷い御執心と云はねばならぬ。

予は「自然と人生」よりも、「不如歸」よりも、「黒潮」よりも、乃至は近頃の「寄生木」よりも、一巻の「思出の記」を愛讀する。予は此記を何度よんだか分らない。いつであつたか、青年の集會で、「忘れられたる思出の記」とか何とか云ふ題で、自然主義やなんかを罵倒し、健全なる青年男女の讀物として極力これを激賞したら、歸りには近所の書肆にあつた、此本が皆うれて仕舞つた事があつた。何故に予はしかくこの書を愛讀するか、それは此の寫眞を持つてをるからである。この寫眞を以て此の「思出の記」を讀むときに、凡て此の文字は活きて來る。紙背人ありて、予にものいふのである。

菊地愼太郎は讀者の想像の通り、德富健次郎先生其人であつた。

◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎

「如何しました、頭痛がしますか」、と差し覗くと、氏は依然眠るが如く念を凝らして居る。やゝあつて氏は微笑して立ち上り、

「菊地君、吾輩は祈禱をして居たのです」

「祈禱！何の祈禱？」

「吾輩はクリスチヤンですから」

「耶蘇教信者？」と叫んだ僕の顔を莞爾眺めて、

「左樣です、——惡いですか」

僕は且つ驚き且つ失望せざるを得なかつたのである。　（思出の記、二一二頁）

これ菊地愼太郎が新しく得た友人兼頭道太郎との對話で、彼れが初めて基督教に出會つた時の有樣である。固より大反對で、耶蘇と云ふ字音に一種の胸惡い所があつて嫌いであり、苟も知覺ある男子が、どうして眞面目に信せられやうかと思つたとある。

夫れから彼は志津信道と云ふ牧師の紹介で關西學院の學僕として勉學すべく、同院にはいつた。短き院の生活は不幸にして信仰上何物も彼には與へなかつたらしい。然るに其年の夏休みに、牧師と共に比叡山に天幕避暑をした。或日兼頭君と四明が獄の絶巓に登てつ、絶景を觀賞しながら、兼頭君の熱心な宗教談に耳をかたむけて居ると、俄然天候激變して大雷雨となり、走り歸る途中、落雷のために兼頭君は非業の死を遂げてしまつた。彼の靈魂はこの時根底より搖り動かされ、地に平伏して神に祈つた。兼頭道太郎の肉は死んだが、菊地愼太郎の靈は、ために眼を醒ました。

「あゝ無神論者は何とでも云ひ玉へ、僕はどうあつても全能者の攝理を認めずには居られぬ。眼を瞑つて吾十八年の生涯を繰つて見ると、吾を導く至上者の指が、鮮かに見えるではないか。迷つても拗ても、駄々を捏ねても、忍びしのんで來い來いと、手招き給ふ大なる父の面影が見えるではないか。手をかへ品をかへて吾を敎訓し、吾を訓練し啓發して行く全智全能の鞭の影か鮮かによまれるではないか。僕は信じなくつても、僕の靈が信ぜずには居られぬ。信ずる――、謙つて、眞に赤子となつて、身を投げかけて」僕の心は斯く叫んだ。

（思出の記、二六一）

明治十九年、新年第一の日曜日に、僕はプラオン敎師から洗禮を受けた。洗禮をうけた其日に、僕は事の顛末を細かに書いて手紙と共に、小形の新約聖書を母に送り、且つ兼頭君についで僕の信仰の親ともいふべき、志津牧師にも年詞にそへて其由を報じた。

（思出の記、二六四）

明治十九年一月！願はくは我が爲めに祈玉へ！。

吁、遂に彼は德富健次郎先生自身であつた。

此の寫眞は予が寫眞箱に異彩を放つて居る。

子女教育に對する母の務（其十六）

海老名みや

子供の友達に就て

此間のことですが、只今幼稚園に通つてをります宅の末子が、これは僕のお友達だよといつて、同じ位の坊つちやんをつれて、威勢よく歸つて參りました。見るからに温しやかな立派なお子でありまして、よいお友達だと思ひましたから、ゆつくり遊ばしてお歸ししたいとよつぽど思ひましたけれども、いや／＼、此お子のお宅では歸りが遲いといつて、嘸心配してれいでになつたらうと思ひましたから、お宅で心配して待つて入らつしやるから、はやくお歸りなさいといつて歸しました。そして宅の子供にも、お友達をつれて來たり、又だまつてお友達の處へ行つたりすることはよくないと申きかせました。

又只今尋常二年の子供が一年の時でありましたが、二三人も一所に腕白らしい顔をしたお子達がぞろ／＼と遊びに來たり、朝早く、昇校時間四五十分も前に、數人一連となつて誘ひに見えますので、宅では始業時間、五分か十分前に學校へ着きます樣、時間をはかつて家を出しますので、四十分もはやく參りますことはよくないと存じましたから、毎日／＼おあとから參りますといつて斷りましたので、終には誘ひに見えなくなりました。こんな工合に致しますと、一面子供のお友達を拒絶するかの樣で、可愛

さうに思はれますけれども、よほどこゝは考へなければならないことだと思ひます。

人間が社交的動物なら其子供は猶更社交的であることは皆様御實驗の通りであります。犬ッコロでも猫の子でも、母子兄弟、くんづほぐれつ遊んでをりまして、まだそれのみで厭き足らないで、人間を見ては、じやれつきからみついて、それは／＼なつっこいものであります。子供が初めて幼稚園なり小學校なり出る様になりますと、我家を離れて社會へ足のふみ出しでありますから、見るもの聞くもの珍らしく、殊に同じ年輩の、異つた多くの子供と交るのですから、子供の心に非常の興味と様々の刺激をうけることを、親たるものはよく／＼考へてやらなければならないと思ひます。そこで此、

▲お友達との關係

をどういふ様に致したらばよいでしやうか。勿論其子供の境遇によりますから、お友達は一切内へは招かせないとか、又は遊びには出さないとかいふ様な、一定の方法ではいけまいと思ひます。

たとへば、兄弟のあるものと、獨り子といふのでは、扱ひ上、大變な相違がなければならないと思ひます。そこで遊び仲間になれる、兄弟あるものは學校のお友達をどの位の關係にしておいたらよからうかと云ふことを考へて見度と思ひます。若し家に在つて、男兒は男兒、女兒は女兒で、相當の遊び仲間があるとすれば、他から友達を家につれて來たり、又は遊びに行つたりする必要はなからうと思ひます。若し三人なり四人なりの兄弟が各自其友達をつれて來て遊んだ日には、内は毎日大騷ぎでうるさくてたまりませぬ。それに子供等も其お友達と遊ぶのが面白くて、自然兄弟仲が疎くなる憂がないとも限りませぬ。親と親との親しい間柄でありまして、幸にお仲善の子供がありましたら、時折親の許しを得て、往來をすることはよいと思ひますが、單に學校丈のお友達ならば、學校丈に止めて互に往來する

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

様なことはしない方がよいと思ひます。何百何千の小學兒童、様々の家庭より集り來るものでありますから、中には不良の子供も居ることは覺悟して居なければなりませぬ。『人を見たらば盗人と思へ』とは何んたるいやな教訓ではありませんか。お前のお友達にも惡い人があるから氣をおつけなさいと、清淨無垢の子供の心に注意を與へることは、眞に心苦しいことでありますが、時には斯様な注意を致さねばならないことがありますのは仕方がありませぬ。又注意を致しましても、子供心に一々六ケしく考へるわけにも參りませぬからマア小學時代は友達間の交際は成るべくあつさりと、誰にあつく彼に薄くといふ様でなく、誰にも平らに、好惡の念の少くない様に敎へることがよくはないかと思ひます。學校では友達同士仲能く遊んで、家では兄弟同士仲よく遊ぶといふ様にすれば、子供にとつても充分でありましやう。兄弟のあるものは誠に幸でありますが、此點は、

獨り子は困難

でございます。家にあつて相手になるものは皆大人ばかりでありますから、心底から同情同感になつて、面白をかしく遊ぶものを求めるは獨り子の何よりの願であります。又實際其望みを充してやることは非常に大切であると思ひます。相手はしやの折からですから、誰でも遊びに來るものは歡迎致します。家人も子供の喜ぶのが嬉しくてするがまゝに放任して置きますと、毎日〱誰や彼やをつれて來て騒いで遊ぶ様になります。獨りの子供ですから他から二人や三人つれて來て遊ぶのはよい様な譯ですが、そこは親の眼識を以て、ちやんと誰々と見定めをつけましてこの子なれば家庭もよし本人もよいといふ子供を一人か二人定めてやる様に致さなければいけないと思ひます。其お子さんのお宅が近處で知り合の間柄であれば誠に幸でありますが、若しも知り合でなかつたならば一度親が其宅へ行て親御さんにあつて

其ことをはなし、互に其子供等の監督をする様に致しましたならば相方誠に仕合だと思ひます、どうかすると近所同士親々よりも子供の方が早くお近づきになつて往來を初めることがありますが、これはよほど氣をつけませぬと危險なことが起り安うございます。先づ肉體の方から申ますと百日咳だとか皮膚病だとかは、得てこんな間に傳染するものださうですから、互に注意をしなければならないと思ひます。人に傳染させても誠に氣の毒な思ひをしなければなりませぬが、又人にうつされても迷惑であります。其他精神上にもどんな感化を蒙らないとも限りませぬから、親と親と、親しく交際する間柄でなければ、子供同士も無暗と往來をしない様に注意する方がよいと思ひます。そこで起る問題は、どうしてゝ

お友達を撰ぶか

と云ふことであります。家と家と近所で多少知合か親類であつて、双方とも同じ學校なり幼稚園なりに參

りまして幸に双方純良な子供でありましたらば、往來して共に遊ぶ様にしてやりまして至極よいことゝ思ひます。若し不幸にして近所に知り合の處に斯樣な子供がなかつた時はどうするか、實に困難であります。仕方がないから大人が相手になつてやる、すると子供は自然大人じみて來て讀むとか書くとか、女兒であればお細工をするとか縫物をするとかを遊びと致しますから、誠に溫しくて、知識も技も年にませて發達しますが、とんだりはねたり稚びた無邪氣な遊びが少い丈それ丈、身體の發育が惡かつたり健康を害ふたりする様なことが間々あります。それでどうとかして友達をこしらへてやらなければいけませぬ。或は學校の先生に其事情をおはなし申て、同級の兒童中で、性質溫良にして、家もあまり隔つて居ないでこれなれば双方お友達としてよいであらうと思はれる子供を紹介して頂いて、其子供の親御にもおはなしゝて、安心して遊べる様にしてやつたらよからうかと思ひます。決して澤山はいりませ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ぬ、獨り二人あればよいと思ひます。子供の性質にもよりますが、獨りポッチで育ちますと兎角氣まゝで、變人になる憂がありますから、親しい友達を與へて、一つのものは半分に分けるといふ樣にして、快活に遊ぶと同時に美しい情念をもたせ度ものであります。

小學時代はこの位に致しまして次號には中學時代高等女學校時代の少年少女の友達に就て考へて見度と思ひます。

家庭衛生大意

山小憲佐

此の間新女界の大塚君から何か秋期の衛生に就て談をせよとの事でしたが、別に秋に限つた衛生ではありませんが、此處に平常心得て居らねばならぬ衛生法の大體を述べやうと思ひます。衛生法と一口に云へ極く簡單で有ますが、其中にも住居の衛生、衣服の衛生、食物の衛生及び身體の衛生等の區別があります。

第一●●●●住居の衛生　住居は高燥の土地を撰び成るべく屋敷が廣くて日光の透射及び空氣の流通の良ひのが宜しい。則ち南向きの家が一番宜しい、而して適當に樹木を植ゆるは目を樂ましむるばかりで無く、空氣を清潔にする利益があります。青葉が空氣中から炭酸瓦斯を取つて、酸素を吐き出しますから、丁度動物の呼吸と反對に、空氣を清潔にするのであります。又濕氣の多ひ土地では夫を防ぐには桐ユウカリー樹等を植ゆれば、水を吸ひ上げて、土地を燥す利益になるのであります。然し秋から冬にかけて澤山葉が落る樣になれば地面を汚しますから、良く掃除をする必要があります。家の廻りの溝渠及び下水は不潔物が混つて居りますから、滯らぬ樣に度々流さねばなりません。厠は臭氣を發して空氣を汚し、又地中に浸込んで井戸水に混じ大害を招くことが有ますから、度々掃除して清潔にし、餘り溜らぬ内に

汲み取らせるがよい。室内は常に空氣の流通を良くし、良く燥し度々掃除して塵埃の溜らぬやうにし、又多人數の集合する時などは、時々窓を開ひて空氣を交換する必要があります。其他炭火ランプ等は空氣を汚すもので、日本の家では甚しき害を起しませんが、西洋室等では窒息して死ぬることがあるのであります。又飲食物の腐敗喫煙衣服器具の不潔、濕氣等も空氣を汚すものでありますから、成るべく別室で飲食及び喫烟を爲し、衣服や寢具や器具の掃除も成るべく室外で行ひ、板の間戸障子を掃除し、寢具等は輕く叩ひて塵埃を去り、時々日光に曝すべきであります。汽車や電車の中で烟草を吸ふ人が有る時は窓を少し開けて置く方がよい。私の尊敬して居る或る人が汽車の中で烟草好きの西洋人と爭論をしたことが有ます。其は寒ひ冬の日で有ましたが、和歌山から大阪へ行く汽車の中で、ある西洋人が盛んに喫烟したので、車室内は煙が一ぱいになりました。所が其の人は烟草が大嫌ひで其の上養生家でありますから、窓を開けさせせました。すると件の西洋人は寒ひから閉ろと申ますので、此方では烟草をやめたら閉めても宜いが、汚れた空氣を吸ふよりも寒さを耐えた方が身體の爲めで有るとて承知しませんでした。次に臺所では水其の他種々の飲食物を取り扱ひ、從つて汚れ易く又空氣を汚すことが多ひから殊に注意して勝手道具や布巾等を清潔にし飲食の殘りは速に終末をすることは最も緊要であります。

第二　**飲食の衛生**　飲食は身體を養ひ總ての仕事の原動力となるもので有ますから、務めて善良なるものを撰び適度に用ふべきであります。夏は成るべく淡泊なるものを扣へ目に取り、秋から春迄は成るべく澤山飲食するのが宜ひ樣で有ます。然し要するに動物性と植物性とを適度に混せて用ひるのが最も緊要であります。動物性の食品は魚介類鳥獸肉及び鷄卵等でありまして、殊に魚肉は消化が仕易き爲め、小兒等には結構であります。又魚肉及び鷄卵は煮、或は燒いて食するのが適當ですが、極く新鮮なるも

のならば、生で食べても差支はありません。獸肉は新らしいのは却つて硬くて消化仕惡いものでありますから一二晝夜過ぎたものが丁度宜いやうであります。肉類の新鮮と否とを知りますには、先づ新鮮善良なる獸肉なれば肉の色赤く指を觸る時は彈力性を覺え一種の香氣が有りますが、ふるき腐つた肉になりますと、軟くて靑味を帶び不快の臭氣が有るのであります。又肉類を調理する時中心迄で火力の透る迄で煮或は燒き等しなければ條蟲等の寄生虫にかかる危險が有ります、魚の中にも鱒等は寄生虫の居ることがありますから、生で食べない方が宜しい。植物性の食品も新しいのを擇ばねばなりません。野菜の積物などは生と同樣でありますから、葉の附け根の所を餘程よく洗ふか、又切り捨てなければ、十二指腸虫病等にかゝる恐れが有ります。食料の調理は食品の種類によつて一樣では有りませんが、總て是を煮るには火を弱くして、長時間煮る方がよろしい。パンの少しく舊くて硬くなつたもの等は緩れば又故のやうに軟になります。食料に用ひます繪具は檢査濟みのものなれば害は無ひ樣ですが、時々不正品が有りますから、成るべく用ひぬ方が宜しい。牛乳は卵と同樣に最も消化仕易き滋養品ですが、肺病豫防の爲め消毒を嚴重にしなければなりません。又別に病氣でも無い人が牛乳を一合位宛飲むのは殆ど無意味の事で、其よりは美味い御菜をもつて、御飯を澤山食べた方が爲めになる位ゐであります。勿論病人は特別で有ります。飮水の中でも水道は危險は有りませんが、井水は決して生で飮ではなりません。殊に山奥等で美味さうに見える谷間の淸水等には意外に毒を持つて居ることが有りますから、餘程注意して飮まぬやう心掛ねばなりません。

▲前號正誤

前號三谷民子姉の「オルツオースのアンドリヤ、デルサトーを讀む」は「ブラウニングのアンドリヤ、デルサトーを讀む」なりしは記者の誤記につき茲に訂正す。又同文中「ペリ郊外」は「フローレンス郊外」

時局二題

伊土戰爭

久しく平穩であつた歐洲の外交界は、曩日獨佛の間にかのモロッコ問題を惹き起して、天下の耳目を惹いたが、其事件の落着せしと見る間に、今回トリポリ事件より伊太利と土耳古との間に葛藤を生じ、事件は急轉直下して、國交斷絶遂に干戈を見るに至つた。

▲事件の眞相　然し此問題は突如として起つたものでない。抑もトリポリはアフリカの北部地中海に沿へる土耳古の殖民地であつて、伊太利は對岸の事なれば伊國民の此地に殖民する者多く、從て之まで土耳古に對し種種既得の權利があつた。而して事もあらば更に自己の權利を確保するのみならず、歩を百尺竿頭に進めて、之を我物にせんと思つたのは一再に止らなかつたのである。現に千八百九十九年、三國同盟新成の時など勢を恃みて一たび之を試みんとて、歐洲諸國の鼻息を覗ひたるも時利あらずと見て思ひ止まつた事もある位である。

然るに今回モロッコ問題の起るや、佛國はモロッコに於ける地位を確實にし、獨逸はコンゴー地方に於て何物かを得るの消息傳へられた。茲に於てか十年隱忍した伊太利も食指大に動き、輿論は日に日に熱を高め來れる時も時、土耳古の青年黨は同地に於ける伊太利の横暴を憤慨し、其既得權をも蹂躙せんとしたので、伊太利は時こそ來れと干をとりて立つたのである。

▲事件の進行　初め此事件の起るや、土耳古の政府は成るべく、平和的解決を見んことを望みたるが如く、且つ土政府はトリポリに於ける伊太利の特種なる經濟的權利を承認したならば平和に落着するであらうと信じたやうである、然るに伊太利の意志はソコにない。ソコで伊太利はイキなり十隻の軍艦を派遣してトリポリ海岸を遊弋し示威運動をなし、一方「伊太利は軍隊を以てトリポリを占領するに決せり。而して土耳古は右占領に反對せざる樣命令を發し、次で最後の決定を得んがため、協約の締結を見るに至らんことを望む、との最後の通牒を發し、二十四時間以内に其確答をなさん事を要求しました。

▲開戰　土耳古政府も此要求に應ずるには忍びなかつたであらう。否伊太利は寧ろそれを望んだであらう。伊太利は盛に戰鬪の準備をなし、カネワ將軍を司令長官として、トリポリに向はしめ、一方海軍にはアブルッヂ公爵の下にある艦隊を以て之に向はしめた。而してプレベサ砲臺を占領し、トリポリを占領し、土耳古兵は敵對して戰はずして退却したかの樣な姿である。而して伊太利は遠慮なく自由の行動をとり、六萬の陸兵を送りて之を守らせ、全くトリポリを我物とした。其他にも兩軍の間に少さき戰鬪行爲はあつたが、要するに土耳古は不備なる軍隊を以て伊太利に對抗せんことは策の得たものでないと見たのであらう。尤も其後西電は、土兵のトリポリ逆襲其他諸要所の回復を謀るため兩軍の間に數回の激戰ありしのみならず、土國政府は一大動員の令を下したる由を報ずるも、結局は外交通の人達の語るがやうに事件は今日以上に發展せずして、歐洲列國の調停の下に、土耳古は伊太利の要求を入れて、トリポリを伊太利に讓與し伊太利は何等かの行爲を以て之に酬ゆるに至るであらうとの事である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

清國の革命運動

世界の中、淸國ほど革命運動の多い國もない。これは支那の歷史其物が革命運動の記錄と云つてもよい位であるから、今日に至るも、其思想が遺傳的に國民の中に瀰漫して、折もあらば北京朝廷に反抗せんと思つて居るからではあるまいかと思ふ。

▲發端　中淸即ち揚子江沿岸の地は革命者の巢窟である。今回の運動も、やはり此邊から起つた。事の由て起つた原因に就ては云ふところ區々として、未だ一定の說を提ることは出來ないが、其近因は漢口の露國租界に於て革命黨員の爆裂彈製造を發見して、之を逮捕したるを手初めとして引續き武昌にても二十餘名の黨員捕縛され、首領三名斬首に處せられたるが動機となりて突如として叛旗を飜したるものらしく、其遠き原因は、常に滿人即ち北京政府に反感を持てるが故なるへしと思はれる。

▲態度　然して從來の革命軍は徒らに輕擧暴動を事として主義も統一もないが、今次の革命軍は其點に於て特色を發揮し、公明正大にして且つ組織的に何處までも所謂暴動と其撲を異にして居るのは注意すべき點である。殊に注意すべきは、其堂々たる態度であつて、彼等の目的とするところは、北京政府の羈絆を脫し別に一個の共和國を設立せんとするのであつて、彼等は既に「黃朝」なる文字を使用し、往復文書には「黃帝紀元四千六百〇九年月日」と記してをる。さうして軍紀も亦大に嚴肅にて苟も私財を掠め、婦女を辱しめ、民業を妨ぐる事をせず、殊に外國人に對しては極力其安全を保證せんと努めて居る。されば昨今は武昌、漢口、漢陽等何れも秩序回復して大部分は店舖を開いて居るそうである。其袖領はこれ又明かに知る事は出來ないが、黃興、黎元洪は其中の尤も有力なるもので今日の經綸畫策は皆此人士によつてなされて居るらしい。然してかの有名な孫逸仙は目下米國にあるとは云へ、此革命運動に直接間接の力あるは云ふまでもない。

▲獨立宣言　彼等は元湖北第二十一旅團長黎元洪の名を以て、左の意味の通牒を以て愈々獨立を宣言し、各國政府に送つた。

黃帝の子孫たる吾人は常に滿朝を亡ぼし獨立を圖らんとせしも事志と違ひ今日まで獨立の宣言をなす能はざりしも今や吾黨の素志なり、四川を平定し其土を領し玆に黃國の獨立を宣言し不倶戴天の滿奴を亡ぼすべき秋は來れり。列國願はくば黃國の獨立を認め今回の交戰に局外中立を嚴守せれらんことを望む。若し斯の如くんば從來淸國の締結せる條約は皆履行し負ふ處の賠償借欵は悉く責に任ずべし。又誓つて外人に危害を加へざるべし云々。

▲戰況　武昌は第八鎭のある處で統制官は張彪であるが、革命黨は去十一日之を圍み、張は圍を衝いて武昌城を出で小蒸汽船にて漢口にのがれた。叛旗を飜した同鎭の軍隊は砲兵二大隊步兵四大隊及工兵輜重兵の一部であつて同城の陷落は全く叛軍のために成功せられたものゝやうである。次で湖南長沙の岳州も革命軍に占領せられ、次で漢口も三日に亘る攻戰の後遂に革命軍の手中に落ち、征討軍は水陸共に破れて江を下りて退却し、江岸停車場も又彼等の占領するところとなつた。事件は果して那邊まで發展すべきや、今より豫想臆測することは出來ない。

隨感

繪の生涯

私どもは毎日一枚づつの繪を書いて居ります。朝起きますのは、即今日と云ふ絹地に向つて、筆を執つたのでありまして、夜やすむのは、即ち筆を擱いたのであります。

一日中、自分の力の限りを盡して、爲すべき事を致しましたなら、其繪は正しく線書がせられた事になり、柔和な謙遜な心を以つて、人に接しましたなら美くしく彩色せられた事になります。それが、もし、自分の義務を果さなかつたり、充分に、力を注がなかつたりしますと、其線書が、不正確で、見事でないやうになります。又、人に不親切であつたり、惡るい事を考へたりしますと、其彩色が不調和で、見られた繪ではなくなります。

かやうに、私どもの爲した事、思つた事は、總べて、美と爲り、醜と爲つて、悉く、絹地の上に現はれて出ます。そして、私どもは、生きて居ります限りは、いやでも毎日、一枚づつの繪を書かねばなりません。しかも、其の繪は、書き直す事も、消すことも、できません。誰が書いた繪であるとして、一一、神樣の前に出され、何時までも、保存せられます。さう思ひますと、此の一日一日が、どうしても無頓着に過されません。一日中、心を清く保つて、總べてに最善を盡さねばなりません。まづ、朝起きます時に、今日こそは立派な繪を書かうと覺悟し、夜床に這入ります時、今日の繪は、確にできたか、彩色は麗はしくせられたか、昨日の繪に較べて進んだ點が有つたかと、省みるがよいと思ふ。（目白の人）

これからの奥樣は

従來の奥樣ならばお臺處の隅に燻ぶつて、臺所だけが領地でしたが何うでせう、之からの女はそんな

事では濟まなくなつた。どうしても高等敎育がなければと私が申ますとね、何あに女なんかは何でも服從して行けばいゝ。普通に文字を知つたらば後は臺所に引込んで居りや夫れで澤山だと、互の議論に花が咲いてね、敗けず劣らずの氣焔を吐きましたがね。いくら言つても承知しないので、私も少し焦慮氣味になつて、那樣女を要求する位の男は、お氣の毒だが自分が卑いからだ、封建時代の女でも探がして來て奥樣になさるがよからうと、大笑ひしましたがね。實際女に學問がなくつてゐて、どん／＼智識の進んで行く世の中の男の話對手、眞實の助者にどうしてなられませう。これからの女はお臺處で濟だ處が、御主人のお手傳がどん／＼出來ないでは困るんですものね。或る紳士の家庭では旦那樣が書きつ放しの原稿を、奥樣が片端から淸書して、時には文字の違ひ、言葉の置き方などは直しながらかく、側で讀めば書きとると言つた樣に、旦那樣の隱れた片腕になつて居られる。其代りに三度の物は下女任せ、お臺處には一日に一度か二度顏を出すだけ、仕立物も他處に出す、夫でも御主人のなくてならない助者になつてゐるのです。まあ何方がいゝせうか。

それは御判斷に任すとして、私の聞いて感心しましたのは、合衆國で大統領の地位を爭つた民主黨の領袖ブライアン氏の奥樣ですね、夫が大統領候補に立つて演說會をする前に、奥樣に、今日は圖書館に行つて云々の事を調べて來て貰ひたいと申ますと、折から市場に野菜籠を提げて買物に行かうとして居られる細君は委細の事を聞とつて籠を肩にかけたまま圖書館に行つて、急いでしかも詳敷筆記して夫から市場に廻つてキヤべツやビーフなんぞを買つて歸つて來るといふ有樣、さうして洗ふが如き赤貧の夫を助けて夫の片腕となり、加之も家事に心を配つて夫に滿足を與へました。こんな女は普通の敎育では到底間に合ひません。どうしても私は高等敎育のある女が確かり立たなければならない時だと思ひますよとは、或る奥樣の御實驗談でした。（竹中記す）

煩悶相談部より

安井哲
海老名みや

本誌が同人協議の上、此部を設けまして、一身の所置に迷ひ、人生の悩みに苦しんで居らるゝ方のために力となり、慰藉者となり、其相談相手となつて、及ばすながら解決を與へたいとの微衷から、前號に之を發表しました事は、讀者の知らるゝ通りであります、其後如何と思つて居りましたが、私共の様なものでも、御信頼下さいまして、未見未知の方から、種々な問題を具に打明けて解決を望まれる事は、如何に皆様が、平素新女界を御愛讀下さいまして、私共の精神を諒解して被居るかを知る事を得まして、深く感謝の意を表します。

参りました御手紙の中には隨分こみ入つた問題もありまして、眞に御同情にたえず私共も心をこめて種々吟味いたした上で、御返書を差上げ、如何か圓滿なる解決を見るやうにと、心から神に祈つて居ります。また左の分は世には同憂の方もあることと思ひましたから、御承諾を得まして其の大意を紙上に發表いたすことに致しました。

◎獨立して暮したう御座います

信州　某女

私は或事情の下に弟の世話になつて居るものであります。弟は相當の事業をいたして居るもので、收入も相應にあり、私が居りましたからとて生活には困ることは勿論ありませんが、私此春洗禮をうけまして神の聖名に入れられましてから、唯だ安閑として、世話になつてをる事が、いかにも神様に對して相濟まぬやうな氣がいたし、一日も早く獨立して暮し得るやうに致したいと思ひます。併し、弟はそんな心配は入らぬから、安心して家事でも助けて與れるやうにと申します。又何を致しますにも當地は田舍の事故、適當な事業もありませず、ありました

處で弟が許しません。御地にて何か私に適當な仕事はありますまいか、云々。

洗禮をお受けなさつてから、唯だ安閑として他の世話になつてをる事が、神樣に對して相濟まぬと、御自覺なさつた事は、誠に雄雄しい御精神と感服いたし、誰も信者となる以上は斯くありたいものと存じます。

東京にお出でになつて、何か職業を求めて、獨立自活したいとの御希望ですが、其點は如何かと存じます。私共の精神は、一身の問題を最も善きに解決すると共に、家庭をも圓滿にいたすのが旨とする所であつて、唯だ其人一身の事にのみ走りて、周圍を顧みないと云ふことは致したくありません。又夫れが眞の圓滿なる解決と存じます。今貴姉の御境遇を察しまするに、御令弟は何處までも貴女を世話し、貴姉の力となりたい御心組と察せられます。ですから、神樣に對して相濟まぬとの御心持を以て、弟の一家のためにお盡しになり、其心持を以て出入の者にお對しになれば、貴姉は今迄の御境遇にありながら、神樣に對し　十分に職責を盡し得る事と信じます。尤も他に事情があるとか、又は御令弟も御承知の上で快よく別れて修業を致すとか修養をするとか云ふ意味で、獨立して自活をなさると云ふ事なら、それは又考へやうも御座いませうと思ひます。（安井哲子）

◉心がすゝみません

北海道　某　女

私は高等女學校を卒業いたしました者で、唯今は或る小學校に奉職いたしてをる者で御座います。此頃になりまして私の心に擔ひかねた重き問題が生じまして、深き惱みに沈んでをります。夫れは結婚問題です。相手はうすい親戚つゞきでありまして、商賣をいたして居る者でありますが、誠に着實な男で、商人として將來有望な男と誰れもほめぬ者はありません。兩親も親戚も皆良縁なればおきめなさいと申し、一家の中誰れも異見を持つものはありません。然るに私の氣に入らぬ事は、本人が何にも教育のない事であります。之れからの世は何事をするにも一通りの教育がないといかぬと思ひますので、私はどうしても氣がすゝみません。私は自分の意志を殺して皆の意見に從ふべきでしようか、夫れとも何處までも自分の意志を通すべきでしようか。

中々切實な御質問で御座いまして、私共も御確答に苦しむ次第でありまして愼重に之を考へねばなりません。さて貴姉の御手紙を拜見致しまするに、第一親戚つゞきなる事、第二着實なる男にて將來も見込みある實業家なること、第三、兩親乃至親戚も良き縁と是認して居ることは、既に結婚の大體の條件を具へてなるものと思ひます。然し貴姉のおつしやる教育の有無はたしかに大切な問題であります。大切な問題に違ひはありませんが、此場合唯之れのみを以て皆樣の意見に反對なさるのは如何かと存じます。世の中には少しも教育を受けずして、然も常識の發達した立派な人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

物があります。私共の知己の中にも、自分の名前が書けるか書けない位の學力で、實に我國に名高い成功者の一人として數へられ益々發展しつゝある人があります。文字上の智識と社會上の常識は別であります、かう云へばとて元より教育ある人を尊ばぬわけではありませんが。世の中には隨分高等の教育を受けてつまらぬ人間となつてしまふ人もあります。察するに先方は着實にして將來見込ある青年とあれば、常識にとみ人格もいやしからぬ、人より信頼せらるゝに足る御方と思ひます。これからの世は何よりもまづ人物であります。學問と云ふよりも人物のシツカりした人を擇ぶのが、生涯の幸福であります。ですから貴姉は兩親の意に從ひまして御決心なされ、其方をして益々其人格を發揮せしめ、殊に將來見込ある青年でありますれば、貴姉が之を奬勵なされて、之より學問をなさる樣にお勸めなされ、零碎な時間をも利用なさるなれば、一通りの常識的な學問を修業する事は決して六ケしい事ではありません。而してそれが貴女の神の前に負へる使命かもしれません。（海老名みや子）

煩悶相談部

一、人知れぬ悩みに悶へらるゝ姉妹のために此部を設けました

一、御相談はすべて返信料つきにて成るべくお手紙にお認めて下さい

一、新女界誌上に掲載(勿論假名で)を欲せられない方は其旨御附記を願ひます

一、すべてお手紙は左記へ宛てゝ下さい

東京市小石川區林町四十三番地

新人社

本誌定價（一部金拾錢（郵稅共）◎六部半年分前金六十錢（郵稅共）◎壹ヶ年分十二部前金壹圓拾錢（郵稅共））

定價外國行（壹部金拾四錢　郵稅共）◎半年分前金八拾錢（郵稅共）一ヶ年分前金壹圓六拾錢（郵稅共））

一行廿七字詰	四分ノ一頁	半頁	一頁	内表紙拾貳圓
金廿五錢	金三圓	金五圓	金拾圓	外表紙拾八圓

●數回引續き御掲載の向へは大割引可致候

●本誌代金は總て前金に御拂込み被下度候●●●●

●振替口座にて御送金の時は手數料壹錢必ずそへらるゝこと

●郵券代用は一割增の計算にて御送附被下度候

通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず發行所宛に願上候

明治四十四年十月二十八日印刷
明治四十四年十一月一日發行

東京市小石川區林町四十三番地
發行兼編輯人　海老名彈正

東京市小石川區丸山町四番地
印刷人　相原一郎介

東京市赤坂區田町五丁目十一番地
印刷所　秀英舍活版所

東京小石川區林町四十三番地
發行所　新人社
（振替貯金口座一四〇〇五）
（電話番町二五四四）

通俗教育

人道講話

人道鼓吹

十一月一日第二十二號發行

文學博士村上專精先生述

主題講話 **至誠の研究**

一、寶の研究……第十三號

二、誠とは何ぞや……第十四號

三、至誠の標準……第十六號

四、逆境は至誠の母（其一）第十七號

五、逆境は至誠の母（其二）第十八號

1. 楠木正成も逆境の產見なり
2. 大石良雄も逆境の產見なり

六、逆境は至誠の母（其三）第十九號

3. 曾我兄弟も逆境の產見なり

七、「まこと」の語義……第二十號

1. 日本語の「まこと」
2. 漢字の「まこと」
3. 「まこと」につきて先儒の諸說

八、逆境は至誠の母（其四）第廿一號

九、至誠の模範は西鄉翁なり

◎特號 **親鸞聖人**……第十五號

一、略傳

二、時代の方面より見たる親鸞聖人

三、歷史の方面より見たる親鸞聖人

四、性行の方面より見たる親鸞聖人

五、信仰の方面より見たる親鸞聖人

六、撰述の方面より見たる親鸞聖人

七、感想

◎六十一年間の夢物語（自十三號至廿二號）

一、故鄉時代の我

二、播磨國遊歷時代

三、越後の國に遊ばんとする時の苦策

四、却て行忠師の門を叩く

五、行忠師の坐下に在つて唯識を聽く

六、行忠師の坐下に在て學僕を勤む

◉入會の手續◉

本會には誰れでも入會が出來ます、さうして入會には一年分の會費金六十錢に住所書を添へて申込めば雜誌は每月無代にて配付するのであります

發行所 東京小石川區丸山町 振替東京二〇三二四 人道講話會

京都染元

染見本發行

黑紋附　模様染　新小紋　色染　更紗染

取引簡易

王徳商店

京都市醒ケ井佛光寺

京染悉皆商

京都市新町三條上ル

松井宗七

并ニ白生地販賣仕候

左近義弼譯

創世記

定價八十錢　郵送料八錢

歷史上の背景・地理上の位置・用語・文體・思想等を推して創世紀編纂以前の歷史系を仕分け、項目を立てて秩序亂れず、六十年前よりの人類史を明確にし、神人對話の靈境を謠へる世界最古の詩歌をも其言律を正し、對句を調へ、言簡にして雅、文莊にして美、眞にユダヤ文學の妙か、ヒブリ思想の玄、この改譯に因りて始めて了解せらるべし、宗教家・史家・文學者と云はず、萬人一日も缺く可らざる寶典なり。

東京　青山南町五丁目三十七番地

聖書改譯社

振替貯金口座參參六八壹

入院診斷後應需

松田、林、峰間、三副長は目下當院に在勤

（本電）八八八（病院用）
八九八（私宅用）

東洋内科醫院

東京神田區駿河臺鈴木町二御茶水橋南

院長　醫學士　高田畊安

南湖院

相州高座郡茅ケ崎町海濱從停車場半里

電話ちがさき二番

河野、高橋、兩副長は目下當院に在勤

但　院長渡歐中　副長代理す

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治四十二年二月廿九日第三種郵便物認可

毎月一日一回發行

明治四十四年十一月一日發行第參卷第拾壹號